

第59号

学体連会報

令和4年度



公益財団法人 日本学校体育研究連合会
(<http://www.gakutairen.jp>)

足が変われば子どもが変わる！ 子どもが変われば未来が変わる！

足元からの健康教育
あしく

「足育」をご存知ですか？



(公財)日本学校体育研究連合会とJES日本教育シューズ協議会は、足育推進に関する実践的研究を進めています。

足育のススメ [幼小シューズ編]

左右に引くだけ!!
簡単に、正しく履けるようになりました。

調整が面倒な
片マジックの靴などは
履き方がぞんざいになりがちでした。

サイズが合っても、
履き方が悪いと、
足のトラブルに
つながりかねません。

足守
ASHIMORI
W・M・N = 3width



W・M・N 3つの幅が選べます
10,000人の足計測から、子どもたちの足に
合った新設計だから、99.7%をカバー。
Wide・Middle・Narrow 3つの幅で、快適な
環境を提供します。

AMT-3110 上履・体育館 Wide・Middle・Narrow / 14.0~28.0・29.0cm



足元からの健康教育 「足育」3つのポイント

Point 1

長さ幅ともに
足に合った
靴を選ぶ

Point 2

毎回ヒモや
ベルトを調整し
正しく履く

Point 3

足指を使い
十分な運動や
歩行をする

あしもり
みんな足守

JES日本教育シューズ協議会

本部事務局 〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-3-4
TEL. 03-3862-8684 FAX. 03-3862-8632



わが国の学校体育の歩みと共に 『デジタル資料館』の開設について

会長 友添 秀則

日頃は日本学体連（以下、本会という）の諸事業にご支援、ご鞭撻を賜りお礼申し上げます。ご鞭撻を感じのうちに、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、令和二年度の第五十九回全国学校体育研究大会福井大会、同三年度の第六十回愛媛大会の両大会は、誌上開催やオンデマンド配信によるハイブリッド開催として実施致しました。今年度の第六十一回滋賀大会は、関係の皆様方のご尽力で三年ぶりの対面開催を目指して現在、努力を重ねているところで、

依然、子供達の体力の現状はコロナが猛威をふるっている中、一層運動時間が減少したこともあって、全国的に低下傾向にあります。また、第七派のコロナの拡大では、多くの子供達の感染が報告されています。子供達を取り巻く厳しい状況の中、ウィズコロナ時代の保健体育授業の一層の充実のために、滋賀大会では感染対策を徹底して、対面での開催が望まれるところです。

さて、本会では先般、本会が所蔵する史資料を、『デジタル資料館』としてホームページ上で広く公開することに致しました。本会の史資料を確認しますと、コロナ禍の今と同様に、本会は常に子供達を取り巻く時々の困難な状況の改善に努めてきたことが分かります。

す。

元来、本会の前身は、第二次世界大戦で戦災により国土が焦土と化し、子供の心身の深刻な状況が大きな社会問題となったことを契機に誕生致しました。多くの子供達は衛生環境や食料事情が悪化する中、栄養失調に悩まされ、体力は大きく低下し、気力も乏しい厳しい状況にありました。このような難局を眼前にして、一九四七（昭和二十二）年五月には、後に本会初代会長となる大谷武一氏や第四代会長となった今村嘉雄氏らが、当時の文部省と連携して全国の学校体育指導者を結集し、本会の前身となる日本体育指導者連盟を設立しています。何よりも、国の復興の原動力となる子供達の健康・体力・気力の充実、体育の復興如何にかかっているという強い責任感が会創設の原動力になったようです。

早くも一九四八（昭和二十三）年の夏には、東京都、大阪府の他にも、岩手、三重、島根の各県で学校体育講習会を開いています。また、翌年には文部省と共催で、『学校体育指導要領（当時の体育版学習指導要領）』に基づいた教材講習会を開催しています。当時は、『体育図書館建設』や図書刊行も計画されていたようです。残念ながら、図書館建設は実現し

せんでしたが、一九四九（昭和二十四）年には金子書房から、最初の日本体育指導者連盟編の『学校体育指導要綱』に掲載された各種目の解説集が刊行されています。これらを基に、それ以降も全国で研究会が開催され、全国の先生方が懸命に作成した実践記録や研究発表資料が多く蓄積されています。

一九六二（昭和三十七年）三月には日本体育指導者連盟は改組され、現在の日本学体連が創設され、同年十一月には第一回全国学校体育研究大会が開催されています。冒頭にも記しましたが、今年度は第六十一回大会を迎えます。大会ごとの研究成果は毎年研究紀要や報告書として集積されています。

また本会には、これまでの機関誌に掲載された原稿、全国学校体育研究最優秀校（文部科学大臣賞）・全国学校体育研究優良校・体育授業優秀教員に関する表彰関連研究成果や諸資料、動画やデジタル資料も保存されています。さらに、日本体育指導者連盟時代には専門誌の『新体育（新体育社発行）』、日本学体連となって以降には『学校体育（日本体育社発行）』の編集を行っていた時期もあります。デジタル資料館では、これらの原稿も含んで、今後逐次公開して参りますので、是非ご覧いただければ幸いです。

表紙にある学体連ロゴマークについて



（公財）日本学校体育研究連合会

上部の円は幼児を、それを受ける形で3つの弧が描かれている。小さな弧から順次、小学生、中学生、高校生を表示している。幼児・児童・青年がしっかりと大地に足を踏んばり、両腕を高くかかげて、生き生きと運動している姿をイメージすることができる。子どものあり得べきシエマを発展的系統的に象徴している『学校教育のシンボリズム』ないしシンボシエマ。図柄は紫紺の地に白抜きである。（会報第28号浅田隆夫理事長（当時の役職））

〒151-0052 東京都渋谷区神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
公益財団法人日本学校体育研究連合会
電話03-3465-3954 FAX03-3465-7464
発行者：友添 秀則
発行日：令和4年11月9日
mail: gaku-tairen@msb.biglobe.ne.jp

目次

会長挨拶	1
座談会	2
全国学校体育研究大会近年度開催地紹介	11
令和3年度受賞 体育授業優秀教員授業実践紹介	12
第60回 全国学校体育研究大会愛媛大会を終えて	20
第61回 全国学校体育研究大会滋賀大会開催にあたって	21
滋賀大会分科会授業の見どころ	22
令和4年度 最優秀校（文部科学大臣賞）受賞校紹介	25
令和4年度 体育授業優秀教員紹介	27
令和4年度 全国学校体育実技指導者講習会について	28
令和3年度 各都道府県教育委員会長期研修生等合同発表大会	31
令和4年度 JASRE足育（あしいく）の推進について	34
令和3年度 賛助会員（個人）一覧	46
令和4年9月期 賛助会員（法人）一覧	47
広告	48

第59号

座談会

日時 令和四年八月六日(土) 午後一時から
会場 ZOOMによる開催

「新学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の指導と評価」をテーマに、体育授業優秀教員の先生方による座談会を実施しました。「三つの資質・能力をどのように育成するか」、「主体的・対話的で深い学びの学習過程がなぜ大切だと考えるか」の二つの内容について話をいただきました。

吉原理事

《はじめに》

お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

この座談会を通して、体育授業優秀教員の皆様の優れた実践

を全国の先生方にお伝えしていきたいと思えます。

本日は、二つの内容を柱にお話しいただく予定です。

一つ目は、体育・保健体育の学習を通して「三つの資質・能力」をどのように育成するかという視点です。もう一つは、「主体的・対話的で深い学び」の学習過程の実践です。体育・保健

体育の授業において「主体的・対話的で深い学び」がなぜ大切なのか、先生方の実践、また資料を踏まえてお話をいただけた

らと思っています。

なお、座談会の進行につきまして

しては、学体連理事長の国土館 大学教授細越淳二先生にお願い

細越理事長

進行を務めます細越です。どうぞよろしくお願いたします。まず、自己紹介をお願いいたします。

久保明広先生(小学校)

鳥栖市弥生が丘小は、J1のサガン鳥栖のクラブハウスが教室から見える学校です。

教員になって二十二年になります。スタートは特別支援学校で、その後公立の小学校、そして佐賀大学の附属小学校を経

て、現任校に勤務しております。

どうぞよろしくお願いたします。

高橋聡子先生(中学校)

岩手県、盛岡市立上田中学校の高橋聡子と申します。保健体育授業や健康教育が果たす役割、その変化、進化の重要性を、日々実感しながら過ごしています。

小学生の息子が、ふとしたことをきっかけに、毎週欠かさず視聴、録画している番組があります。それはNHK・Eテレの「チョイス・健康への道のり」です。子供なりに興味・関心をもっているようで、親子共々楽しく学んでいるところです。本日は、どうぞよろしくお願

いたします。

齋藤優気先生(高等学校)

さいたま市立大宮国際中等教育学校、齋藤と申します。

私は、中等教育学校という中高一貫校に勤めています。教員のスタートは中学校、その後高等学校に勤務していました。今年度、国際バカロレア(IB)を導入している学校に異動になりました。特殊な一面もありましたので、紹介をしながら楽しくお話ししていけたらと思っております。よろしくお願いたします。

上村紘史先生(特別支援) みやぎ中央支援学校の上村紘史と申します。宮崎の中央に位置する特別支援学校で、部活

動が盛んです。私も午前中、陸上競技の部活をして、今ここに参りました。今日は有意義な時間を過ごさせていただくことを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いたします。

細越理事長

先生方、あらためまして体育授業優秀教員の受賞、おめでとうございます。優秀教員の先生方が新しい学習指導要領の目指す体育・保健体育授業についてどのような取組をされているかを、先生方の声でお伝えいただきたいということで、今回の座談会を企画させていただきました。

それでは最初に、体育・保健体育の学習で身に付けさせたい



高橋 聡子 先生
盛岡市立上田中学校
教諭



久保 明広 先生
鳥栖市立弥生が丘小学校
教諭



細越 淳二 先生
国士舘大学
教授



上村 紘史 先生
宮崎県立みやざき
中央支援学校
教諭



齋藤 優気 先生
さいたま市立大宮国際
中等教育学校
教諭

座 談 会
出 席 者

力、「三つの資質・能力」が新しい学習指導要領で示されました。これをどのように育成していくか、その心がけていること等、お話をいただければと思います。

《三つの資質・能力》の育成》
久保明広先生（小学校）

私が、大切にしていることは、「単元を貫く問い」を一時目目に設定することです。その設定の仕方は、私から出すときもあれば、子供たちから導き出す場合もあります。

具体的な話をしますと、例えば、バスケットボールはある程度経験したことがあるので、簡単なゲームをした後、「みんなはどんなコトをやっているの?」と問いかけます。すると、「パスをつないでいる」「仲間と協力している」などと子供たちは答えてくれます。そこで、「パスがつながればいいんだね。仲間と協力できればいいんだね」と問い返すと、「シユートを決めるために、パスをつないだり、協力したりする」と返します。

そこでさらに、「攻める側と守る側があるんだけど?」と問い返すと、バスケットボールは「シユートを決めることができるか、決めさせないことができるか」という単元を貫く問いを子供たちと設定することができます。

高橋聡子先生（中学校）

その問いがあるからこそ、子供たちはそのためにもうすればいいのかと思考していきます。そういった学習過程によって、パスを丁寧になければいけない、キャッチをうまくしなければいけない、仲間と協力しなければいけないというような三つの資質・能力」が育成され、発揮されていくのではないかと思っています。

私が「三つの資質・能力」の育成に向けて心掛けていることは次の二点です。

一点目は、男女共習で学び続ける本校の生徒が、毎年度末に「保健体育科の魅力」の記述を「こころみ」ることで、生徒と教師がそれぞれの視点で分析し、

次年度の始めに共有することで
え合おう！」——。体育の授業
に限らず、保健の授業内でも効
果的に発し、年間を通じて、生
徒の思考の中に浸透させていく
ようにしています。

二点目は、体力・運動能力診
断テスト質問紙調査から、次年
度及び今後のスポーツライフの
方向性を示す顕著な項目を、保
健体育科の教師間で分析するこ
とです。

齋藤優気先生（高等学校）

この二点を踏まえ、目指す生
徒像及び具体的手法を見通した
り、見直したりすることを心が
けています。この「こころみ」
の継続により、授業づくりとそ
の改善との好循環を目指してい
ます。

また、毎年度出会う、目の前
の子供たちと向き合い、現状を
知り、今必要とされる力のみな
らず、未来の「健幸」につなが
るようなエッセンスを授業の中
に盛り込むようにしています。
特に大切にしている言葉がけ
は、次のようなワードです。
「それは何に活きそう?」「そ
れは体にどんないいことありそ
う?」「それは健幸にどうつな
がる?」「脳と心を動かして考
えてみよう!」「脳と心を連動
させよう!」「伝えよう!」「伝

だと捉えています。そして、「学
びに向かう力、人間性等」には
粘り強さと自己調整という二つ
の側面がありますが、それは、
試行錯誤といった言葉に変えて
いけるかと思えます。その様な
重要な要素になると思えます。
その際、生徒一人一人の自助、

(2) 指導と評価の計画 (6時間扱い) 本時は○印 2/6時

時間	1	2	3	4	5	6
単元を貫く問い	現代のスポーツは持続可能な大団な文化として発展・継承されていくか?					
ねらい	スポーツの歴史的発展と多様な変化について理解を深めよう。	現代のスポーツの意義や価値について理解を深めよう。	スポーツの経済的効果と課題について理解を深めよう。	スポーツが健康や社会にもたらす影響について理解を深めよう。	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解したことをまとめ、発展させよう。	
本時の問い	スポーツって何ぞ?	オリンピックは100年後も開催されていくか?	ドーピングのメリットは?	スポーツでお金儲けをしているのか?	スポーツの「持続」と「発展」って?	現代のスポーツは持続可能な大団な文化として発展・継承されていくか?
指導内容(※1)	①②③④	①②③	①⑤	①②	①②③	すべて
学習過程	1 挨拶 2 本時の問いを知る					
	3 単元を貫く問いについて解答と発表をする 4 本時の問いへの解答と発表をする 5 本時の問いへのアイディア出しをする 6 スポーツと経済活動についての事例を調べる【ICT】 7 本時の問いへの解答と発表をする 8 スポーツ概念の実践について知る【課題】 9 本時の問いへの解答と発表をする 10 日本文化とスポーツについて知る【課題】 11 本時の問いへの解答と発表をする 12 挨拶	3 オリンピック・パラリンピックの始まりと発展について知る 4 本時の問いについて解答する 5 本時の問いへのアイディア出しをする 6 エキスパート活動【ジグソー】 A: オリンピック開催のメリット B: オリンピック開催のデメリット C: オリンピックの意義と価値 7 ジグソー活動【ジグソー】 8 タロストーク【ジグソー】 9 スポーツの文化的価値について考える【課題】 10 持続可能な社会とスポーツの関係性について知る【課題】 11 スポーツ上の関わり方について考える【課題】 12 本時の問いについて考えをまとめる 13 挨拶	3 本時の問いへの解答と発表をする 4 本時の問いを知る 5 本時の問いへのアイディア出しをする 6 本時の問いへのアイディア出しをする【IC】 7 発表をする 8 スポーツ産業について知る 9 JADA及びKADAの活動について知る【課題】 10 本時の問いへの解答と発表をする 11 挨拶	3 本時の問いへの解答と発表をする 4 本時の問いを知る 5 スポーツと経済活動についての事例を調べる【ICT】 6 発表をする 7 スポーツとメディアについて知る【課題】 8 スポーツ産業と生きがい・関係性について話し合う 9 発表をする 10 挨拶	3 本時の問いへの解答と発表をする 4 本時の問いを知る 5 スポーツと健康の関係性について知る【課題】 6 SDGsについて知る【課題】 7 スポーツの「持続」と「発展」を両立したスポーツの発展やサステナビリティについて知る【グループワーク】 8 発表をする 9 本時の問いへの解答と発表をする 10 挨拶	3 本時の問いを知る 4 これまでの学習を振り返る【グループワーク】 5 単元を貫く問いについて解答する 6 単元を貫く問いについて話し合う【グループワーク】 7 発表する 8 単元を貫く問いについて解答し、解答を振り返る 9 掲示された単元を貫く問いへの解答を見合う 10 感想を書く 11 挨拶
評価計画	加	①	②	③	④	⑤
	思・評・表	①	②	③	④	⑤
	態	①	②	③	④	⑤
	方法	観察 サークシート	観察 サークシート	観察 サークシート	観察 サークシート	観察 サークシート
場面	7.11	7.12	10	9	7.9	8

生徒同士の関わりでの共助、そして、指導者の公助というバランスをいかに取っていくのか、指導法や教授方法をどう意図的に選択していくのかということが大事だと考えています。

本校の中高六年間の体育の指導計画では、サッカーとかバレーボールという文言が入っていません。「投げるとは?」とか、「推進力の効率化とは?」、「跳ぶとは?」という表記で、こうした概念を学ぶために、型であるスポーツを使うというプランニングになっています。

先ほど久保先生もおっしゃっていました。テレビドラマのように一回完結型の問いと、それがずっとシリーズで続いていくような単元を貫く問いというのがすごく重要だと思います。

表は、私が実践した体育理論の単元計画です。単元を貫く問い、そしてねらい、本時の問いという形で明確に配置しています。学習過程と評価をしっかりと設定していくことは、とても大切だと考えています。

する内容について、問いかけを
しました。

例えば三時間目には、「足を
伸ばして跳ぶといい」と「足を
曲げるといい」という意見が出
ているけれど、どっちがいいの、
試してごらんよと投げかけると、
子供たちは自分の解として、僕
は曲げて跳んだほうが跳びやす
かったというような気づきを示
しました。授業のまとめとして、
自分自身が跳びやすい跳び方で
跳ぶのがいいという結論でその
時間を終えました。

話題が少しそれますが、一人
一台端末により、自宅に持ち帰
ることができ、保護者と学習を
共有できるようになったことも
学習観の大きな転換になると
思っています。保護者に活動を
みてもらい、コメントをもらう
ことで、これまででない「主体
的・対話的で深い学び」になる
と思います。

このような学習を通して、豊
かなスポーツライフの実現に向
かっていけばと思っています。

高橋聡子先生（中学校）

「主体的・対話的で深い学び」
は、子供たちが自信をもって、
未来の自分の人生を切り拓き、
「人生を幸せに歩む」ために、
必要な力を確実に育んでいくこ
とが重要であると考えています。
授業においては、子供たちが
「今日の学びはどこに向かつて
いくのか」を理解するとともに、
どのような道筋でその単元の
ゴールに向かつていくのかを理
解することで、さらに深まるも
のと考えます。そのためにも、

保健・体育両面の学習課題に対
し、まずは自分の考えをもつこ
とを大切にしています。

平均台運動の授業の例をあげ
ると、「第一ステージ」の最終
時に（全第三ステージまで設
定）、平均台運動を通して「姿
勢」を意識することは、健康へ
の効果や豊かなスポーツライフ
にどのようなつながるのかにつ
いて、自分の考えをもたせます。
その後、教師作成の「姿勢」に
スポットを当てたスライド形式
の健康学習やその実践（エクサ
サイズ）を踏まえ、以後の第二、
第三ステージでの学ぶ意義を捉
えさせます。深い学びにつなが
ると期待できるこの過程は、他
教科・他領域（道徳・特別活動・
総合的な学習の時間）にも連動
するものと考えます。中でも、
道徳科においては、各学年教科
書教材の中に保健体育科との関
連教材、内容項目が半数以上を
占めているものが顕著に見られ
ていますので、さらに模索して
いきたいところです。

齋藤優気先生（高等学校）

「主体的」に関しては、学び
を調整する側面と粘り強く行う
側面があります。その両方のバ
ランスをとりながら行っていく
ことが重要です。そのためには、
生徒のニーズをいかに引き出し
ていくのか、必要感や意欲の継
続、振り返りをどのように指導
者が支えていくのが大事にな
ると思います。振り返りがある
からこそ修正・改善ができます
し、自分の現在位置を確認する
ことができます。

な視点だと考えます。
その手段として、習得・活用・
探究のサイクルの順番を変えて、
最初に探究させます。例えばシ
ンプルな「跳ぶとは何なの」と
問いかけて、自分が持っている
知識や経験でまず答えを考えさ
せる。その上で習得・活用・探
究というサイクルが始まるとい
う流れが有効だと考えています。
単元の冒頭で既有知識や経験を
もとに自分でやってみるという
段階を設定することで、生徒は
現在位置を知ることができます
し、主体的な学びを引き出すこ
とができると思います。その後、
手段として対話を使って、跳ぶ
という概念を繰り返し検討し、
最後は他の運動やスポーツに学
習した概念を転移（トランス
ファー）していくことで深い学
びに到達できると考えています。
この探究からスタートするとい
うスタイルもいいのかと思います。

「姿勢」が崩れ始めると…

- ・人間は、自然と余分な筋力を使ってバランスを保とうとする。
→ 体の背骨や骨盤などの色々な部位への負担が増え、ますます姿勢が悪くなる。
- ・悪い姿勢が続くと、血流が滞ったり、さまざまな神経が圧迫されたり、呼吸が浅くなる。
→ 頭痛、めまい、肩こり、腰痛、だるさ等の不調

振り返りも生徒が現在位置を
知るとい意味でも重要な要素
だと思っています。

「深い学び」というのは、概
念理解だと私は思います。この
概念を理解した上で、それをほ
かに転移（トランスファー）で
きるかどうかということが大切

だと思っています。

上村紘史先生 (特別支援)

「主体的・対話的で深い学び」の学習過程の実際ということ、どのようなことに気をつけて授業すればいいかと考えたときに、私自身は、生徒主体の、生徒が主役となる授業づくりを、していこうと考えています。ですので、授業の導入から、私はあまり声をかけないようにしています。例えば体育館に生徒が来たなら、グループ別に分かれて健康観察係を中心に健康観察をしたり、出席係が中心となって出席を取ったりしてグループ内の活動を活発に生徒主体で進めていきます。

係活動を通して自然と主体性が生まれ、健康状態がすぐれない生徒については直接教師に健康状態を伝えることで、卒業後の自分の健康状態にも責任を持ち、自ら報告できるようになればいいかなと、卒業後につながっていきなとと考えています。

ずっと体づくりをテーマに取り組んでいます、導入の際に体ほぐしの運動としてチーム体操とリズム体操を行っています。

ひなたプログラム 特別支援学校ver. 【巧みな動きを高めるための運動】

	★	★★	★★★	★★★★	★★★★★
ボールを使った運動					
	ワンバウンドキャッチ 体の近くで強くバウンドする	上にあげてキャッチ 最後までボールをしっかり見る	手を叩いてキャッチ 真上に高く上げる	座ってキャッチ 上体を起こしたままボールをよく見る	仰向けでキャッチ 肩の力を抜いて顔の上に投げる
ボールキャッチ					
	ボールキャッチ 人が落としたボールをキャッチする	ボールをキャッチ 真上に高く上げてキャッチする	バウンドボールキャッチ バウンドさせたボールをキャッチする	バウンドボール一回転キャッチ バウンドさせたボールを一回転してキャッチする	逆手バウンドボール一回転キャッチ 逆手でバウンドさせたボールを一回転してキャッチする
バットボール筋トレ					
	前に振って 手の甲を胸の高さまで上げる	後ろに振って ひじは固定したまま振り子のように振らす	上にあげて ひじを真直ぐのぼす	横にひらいて ひじとひじをくっつける	腕をまげて ひじを固定したままテンよく
新聞紙を使った運動					
	新聞紙ビリビリ(手) 新聞紙をビリビリ破る	ひらひら作り 少しだけ残して縦に裂く	的当て 新聞紙ボールを的に投げる	ゴミ箱シュート 新聞紙ボールをゴミ箱に投げる	新聞紙ビリビリ(足) 足の指のみで新聞紙を破る
おとしちゃだめよ					
	頭にのせて	肩にのせて	足の甲にのせて	のせて歩いて	立って座って

この二つの体操は、それぞれのグループが考えた体操を音楽に合わせて行うもので、主体性を育てています。仲間と話をしながら、導入の内容を固定化させることには体操も作れません。見通しがもてることで、情

緒の安定にもつながっていると捉えています。

また体づくり運動で、体の動きを高める運動の体の柔らかさ、巧みな動き、強い動き、動きを継続する能力を高める運動の四つの動きについて、それぞれ星一つから五つ、難易度を変えたものを、五種目を五段階で設定しました。一つの動きで、二十五種類の運動を四つ準備することで、一〇〇種類の運動実践事例を考えました。その中で、生徒一人一人が自分に合った動きを選択することで、主体的な活動へとつながっています。

この運動を夏休みや長期休暇でも取り組むことで、家庭と連携するきっかけとなっています。そして、自分たちで考えた運動を発表する機会を作り、ペアになって対話的な活動へとつながっています。それぞれの発表後には、お互いの思ったことや考えをノートに書いて伝え合う活動を通して、友達同士の関わりをもてるようにしました。そして、それをさらに汎化させたもの作成しています。本校

緒の安定にもつながっていると捉えています。また体づくり運動で、体の動きを高める運動の体の柔らかさ、巧みな動き、強い動き、動きを継続する能力を高める運動の四つの動きについて、それぞれ星一つから五つ、難易度を変えたものを、五種目を五段階で設定しました。一つの動きで、二十五種類の運動を四つ準備することで、一〇〇種類の運動実践事例を考えました。その中で、生徒一人一人が自分に合った動きを選択することで、主体的な活動へとつながっています。

は成人を祝う会を二十歳になったときに行います。高校の卒業時に月に一回、一日に記入して、持って来るという取組をします。そうした意識付けで、卒業後も運動や健康に関心をもつて、豊かなスポーツライフへとつなげられたらと心がけています。

細越理事長
先生方から、「資質・能力」と「主体的・対話的で深い学び」の学習過程の実際についてお話をいただきました。お互いのお話の内容について、ご質問等がありますか。その後、協議にしていきたいと思えます。

《問い》の設定
齋藤優気先生 (高等学校)
久保先生のお話を伺っていて、問いを設定することは、私

は成人を祝う会を二十歳になったときに行います。高校の卒業時に月に一回、一日に記入して、持って来るという取組をします。そうした意識付けで、卒業後も運動や健康に関心をもつて、豊かなスポーツライフへとつなげられたらと心がけています。

久保明広先生（小学校）

運動の特性から、単元を貫く問いを考えています。簡単に言うと、特性の裏返しで、特性を疑問形にしたものを問いと捉えています。初めはその単元を貫く問いに対しての気づきは狭いのですが、授業の中で子供たちが課題を見つけて、解決する。そうした過程で、私から問いかけながら、試行錯誤しながら問いに対する気づきを広げているというイメージです。

齋藤先生の質問の答えになるか分かりませんが、走り高跳びや走り幅跳びなど、動きが明確なもの、より高く跳ぶためには？とか、より遠くに跳ぶためには？といった問いを子供たちはすぐに捉えることができます。しかし、器械運動について子供に考えさせると、なかなか整理できないといった状況になります。そのときには、教師から提案しています。単元を貫く問いを見つげるためだけに時間を費やすのはもったいないと思うんです。

齋藤優気先生（高等学校）

同感で、生徒から引き出すというのはとても難しいと感じます。国際バカロレアにおいても問いというのは、重要視されています。問いで生徒の学びをコントロールしていく、もしくは問いによって生徒の学びをデザインしていくというスタンスが大切だと思います。

高橋聡子先生（中学校）

冒頭の「三つの資質・能力」

の話題でも述べさせてください。たことにも関連するのですが、分野や単元を問わず、生徒が常に思考し続けることができる、手軽な「ハテナ?」、考えたくなる「ハテナ?」、将来に活かせるような「ハテナ?」を引き出す問いを、教師側が効果的かつ継続的に投げかけることが大切だと考えます。

上村紘史先生（特別支援）

私も先生方に同感で、特別支援学校において、生徒たちは、特に保健体育に関しては経験不足が顕著に表れています。な

で、問いを投げかける以前に経験不足ということ踏まえて、まずはやってみるということ大事にしています。

先ほど齋藤先生が単元を考えた中で発展からさせてみるというお話があったんですが、全くその通りで、まずやってみる、させるということから、その中で生徒たちが疑問をもって問いにつながるのではないかなと私も自身も思いました。

細越理事長

ここまでお話を伺ってきて、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、それぞれの子たちに問いの質というのがあるように感じました。それから、内容や学習の進み具合によっても、問いは使い分けられるのではないかと、そのようなメッセージを先生方からいただいたと思います。

齋藤先生は現在、中等教育学校にいらっしゃいますが、以前は高等学校で指導されていたのですよね。適切な問いを考える際、中学生と高校生との違いは

感じるでしょうか。

齋藤優気先生（高等学校）

そんなに違いはないと思ってます。しかし、場面や投げ掛け方については、分かりやすくしないと、中学生には難しいかもしれません。それでも目指したいのは、本質をとらえた概念的な理解であり、中学生も高校生も一緒だと思います。

久保明広先生（小学校）

先ほど齋藤先生が、深い学びについての定義に、転移できるかどうか、トランスファーという言葉をおっしゃったと思います。

小学校六年生で、キャッチバレーボールという、ボールをレシープせずにキャッチしてゲームを行うことがあります。中学校では、こうした学びが転移して、バレーボールとして落とさないためにどう組み立てていくか、落とすためにどう作戦を考えていくかのような授業につながればと思っています。

について、「転移」という視点でお話を聞かせていただきたいです。

齋藤優気先生（高等学校）

私は転移とは概念の転移だと思っています。例えば、バレーボールであれば、空間を埋めるとか、空間をつくる、もしくは、使うということが重要な概念になると思います。その障壁となるのは、恐らくラリーの難しさや痛さではないかと思っています。

例えば、サッカーであれば、ゴールすることが一番面白いので、ゴールを安易に、簡単にできるようにルールや場の設定をして、次第に難易度を上げていくことで、面白さを引き出せると思います。

なので、バレーボールについても、ラリーやボールを落とす、合うことの難易度を下げたり、逆に難易度を上げたり痛さという障壁を除去することで空間を埋めるとか、空間をつくる、もしくは、使うという概念の理解にアプローチできると思います。

上村紘史先生（特別支援）

特別支援学校のキーワードの中にスモールステップというのがあります。少しずつ段階を高めていくことで力をつけていくという意味なんです。例えば、できる生徒については、どんなことができるかをたくさんさせることでその子自身の自信を持たせたり、自己肯定感を高めさせたりすることができるとは思いません。

バレーボールにおいても、まず個人の練習で高めて、チームでプレーをするときには、周りの生徒に技を伝えるために、その子はレシーバーだったり、トスを上げる係になったりして、こういう技があるんだよとか、こういうことしたらいいよと伝える立場になります。

本校では、バレーボールは風船バレーという教材を使って、普通のバレーボールではなくて落ちる速度が遅い風船バレーを使ってバレーボールの授業をしています。

高橋聡子先生（中学校）

上村先生の実践に通ずるものがあります。本校では、肢体不自由の生徒が数名、通常の学級にて保健体育授業を行っています。

例えば、「立つ・座る・歩く」という動作は、全ての動作の根幹と捉え、技がよりよくできることのみならず、健康な心身の維持につながるこの学びから、授業導入時に「バランスUPドリル」を適宜、効果的に継続しています。ここでは、あらゆる単元の学びにもつながるよう、先ほど上村先生のお話にもありましたように、風船バレーならぬ「シッティングバレー団」と称して、短時間ではありますが、遊びの中で取り組む時期、時間を設定しています。パラリンピックの正式種目と同様に、床に臀部の一部が接触した状態でプレーすることを通して、あらゆる部位を使って反応する楽しさを味わわせています。

細越理事長

確かにそうですね。

久保明広先生（小学校）

小学校のボールゲームのゴール型では、パスだけでボールをつないでシュートしましょうというゲームが増えていて、これはボールを持たない時の動き方を学ぼうというところから来ているものですね。ゴール型の最初の攻め方を理解しやすいのが手でボールを扱うハンドボールなので、そこで勉強したものを、次はバスケットボールにも、そしてサッカーの環境にも転移させていきたいと思います。それもその発想になります。それがボールゲームのカリキュラムにも何とか型ということで反映されているわけです。

学校種が変わると、扱い方が変わってしまうところがありますが、それを子供たちにいい形でつなげていきたいという、そんな思いはすごく伝わってきたかなと思います。

久保明広先生（小学校）

少し視点が変わってしまいましたが、「主体的・対話的で深い学び」とも関連すると思われる

齋藤優気先生（高等学校）

「納得解」について一緒に考えていけたらと思います。いかがでしょうか。

納得解という言葉、私はとても大事だと思っていて、先ほどお話しした走り高跳びでもそうでしたが、自分なりの解を考え、それを周りにも話しながら自分も他者も納得解を導き出していく学習が大切なかなと思っています。

先生方が納得解についてお考えや実践がありましたら、お聞かせしていただきたいなと思います。

高橋聡子先生（中学校）

私も「納得解」の重要性を日々感じています。納得解をもつからこそ、生徒は単元のゴールにたどりついたことを自覚し、次単元への問いの探究へとつながるのだと考えます。

また、自己の納得解をもとに、他者と交流、共有することを通して、学級としての「共通解」を得ることも、その単元をより深めるものと考えます。

上村紘史先生（特別支援）

まず、「納得解」に至るために考える時間を確保することが大切だと思います。問題提起をしてよく考えさせる、自分で考えて、どう答えまでたどり着いていくか。そして、友達同士で対話したり協議しながら、対話する活動を通して納得解に導いていければと思います。

久保明広先生（小学校）

上村先生のおっしゃった言葉は、まさに納得解の形成と併せて示される協働的な学びという言葉と当てはまるなと思って聞かせていただきました。

細越理事長

お話を伺っていると、最初の

内容に戻るような気がします。

久保先生がおっしゃる、問い続けて学び続けるということ、そのとおりですが、では学びとして節目とは何だろう、子供たちにとっての節目は何になるのだろうかと考えていました。

高橋先生のお話からは、各自の納得解の共有によって、その生徒達・学級にとっての共通解を考えることになり、学習がより深まるという解を見つけ作業のもつ意味の拡がりを指摘していただきました。

齋藤先生が話された、逆向き設計も、期待される結果を明確にした上で、それに必要なものは何なのか、後戻りしていくというお話でした。この二つの方向性は、それが、知識や技能の範疇なのか、あるいは教科横断的に思考・判断・表現とか、学びに向かう力、人間性等だったら、どのように問いを続けられるのかなど、議論していく価値があるテーマだと思いながらお聞きしていました。

形成しながら進められているというのもすごく伝わってきました。スモールステップを示して子供たちの力を伸ばしていくという学びがよく分かりました。先生方からもし何かあれば、お話ください。

齋藤優気先生（高等学校）

ここまで「三つの資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」について話してきました。そのアプローチについてはかなり話ができたとと思います。

では、そのアプローチが十分だったのか、不十分だったのか、生徒がどのような身に付いたのかということに関して、ふだん評価をするときにどのような配慮をしているのか、ということをお聞かせいただきたいです。また、何かいい方法があれば教えてください。

上村紘史先生（特別支援）

特別支援学校においての評価というのは、生徒一人一人における個別の指導計画をもとに評価をしています。特別支援学校

の体育の場合は、私一人ではなく、大体一時間に当たり先生方七名から八名で授業を行います。高等部三年生は四十名の生徒に対し七人から八人の職員で授業を行いますので、生徒一人一人の障害だったり、特性だったり、一人一人の目標に応じた評価を行います。その際私だけが行うのではなく、ポイントポイントを押さえた資料を各先生方にお示しして、学習ノートや授業の様子など、多角的な目標で個別の指導計画を基に評価をしているところです。

久保明広先生（小学校）

評価は先生だけのものではないというのが基本的な捉えです。子供ときちんと共有しなければならぬ、評価は価値の共有だと考えて私は授業を行っているところです。

思考力、判断力、表現力は、学習中の発言等をもとに、学習カードに自分の気づきを書かせることを大切にして評価につなげています。

高橋聡子先生（中学校）

久保先生のお考えに共感いたしました。今の自己の状況を、教師と共に共有することは、さらなる自己理解や自己分析につながるのと同時に、より明確な次の目標設定への好循環が図られるものと考えます。

齋藤優気先生（高等学校）

IBは、クライテリア（評価規準）を先に示します。これによって評価をするのですが、全員が高い評価になったり、逆に低い評価になったりするというミスマッチな状況が表れることがあります。日々、本当に難し

さを感じているところです。知識や技能は比較的看取りやすいと思いますが、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」は、何をみて評価すればいいのか、どのような規準を設定すればいいのか、工夫が必要だと感じます。生徒がよりよい姿になるために、形成的な評価と総括的な評価、両方が納得できるようにできたらと思っています。

細越理事長

評価については、常に今のよ

うな話が出てきます。ですので、まず信頼性と妥当性はきちんと担保しようという視点が大切になります。先ほどクライテリアの話がありましたが、設定したもののついて、学校間格差や教員間格差、学級間格差、がないようにということで、公立学校で言えば、学年内や教科内での共通理解、情報共有を図って実践していくことが大事になると思います。

《まとめ》

ここまで先生方のお話を伺っていて、「三つの資質・能力」については、指導要領の内容に沿って子供たちにしつかりその三つの柱を定着させたいという思いを強くもっておられることは同じだと思いました。また、「主体的・対話的で深い学び」を切り口にしながら、授業のプロセスを非常に重要視されているというのが、優秀教員の先生方の特徴の一つではないかなということを感じま

した。

目の前の子供たちに、あるいは、広い地域の子供たちにとどのような気づきと達成感、それから、つながりを生んでいくかという、たくさんキーワードをいただきました。そうしたところも、また広げていけたらと思います。

それでは、これをもちまして座談会をこれで終わらせていただきます。本当にお忙しい中、ありがとうございました。

各先生方

ありがとうございました。

全国学校体育研究大会 近年度開催地のご案内

第61回全国学校体育研究大会（令和4年度）開催地 滋賀県 令和4年11月10日・11日

第62回全国学校体育研究大会（令和5年度）開催地 山形県 令和5年11月1日・2日

第63回全国学校体育研究大会（令和6年度）開催地 山口県 令和6年11月14日・15日

第64回全国学校体育研究大会（令和7年度）開催地 北海道

授業実践紹介

「健幸」と「共生」を体現した保健体育授業を創造する
 ～平均台運動への挑戦～
 高橋 聡子 盛岡市立上田中学校 岩手県

授業づくりのポイント～授業構築の根幹として～

（上記のポイントⅢの具体）

I 男女共習で学び続ける本校生徒が捉える、保健体育科における「教科の魅力」を、新学習指導要領に示されている三つの資質・能力及び指導内容の重点項目に照らし合わせ、分析する。

II 体力・運動能力診断テスト質問紙調査から、今後の方向性を示す顕著な項目を分析する。（健康面を重視）

III 上記二点を踏まえ、目指す生徒像及びその具体的手法を見通した上で、「授業づくり」とその「改善」の好循環を粘り強くこころみる。

◆ 毎年度、成長を続ける目の前の子供たちと向き合い、今必要とされる力のみならず、未来の「健幸」につながる力やエネルギーを与えることができるよう、知恵と工夫のエッセンスを注ぎ続けていくことを大切にしている。

【こころみ①】 運動の価値や特性への理解について、汎用的知識との関連を図りながら深め、思考し続けさせる。

↓「何のために行うのか」等、その運動を支える原理・原則・意義をふまえた適用、応用を図る。

↓体育的な見方に加え、他教科からの見方を大切にし、運動を多面的に捉えさせる。

【こころみ②】 他者に伝えることを通して、運動と自己との関わり方を考えながら意欲的に取り組み、豊かなスポーツライフへの意識を根付かせる。

↓体育特有の表現を推奨する（アイコンタクト、ハンドサイン、アームタッチ等）。
 ↓教え合うより「伝え合う」を重視し、事象を的確に捉え、理想型と比較・分析し、事実を伝えることを重視する。

学習計画 <B 器械運動 ウ 平均台運動 時間や内容のまとまりデザイン>

【高まる体力等】

- ・筋力・柔軟性
- ・平衡性・バランス
- ・正しい姿勢の維持
- ・巧緻性・身体認知力

【見方・考え方を働かせる仕掛け】

- ① 台上での90秒演技の視聴から、思考を促す発問
- ② 具体的知識を生徒の言葉で引き出すための2つの視点提示
- ③ 具体的知識の習得に、汎用的知識を加え、日常生活との関連を提示



豊かなスポーツライフ 【単元のゴールを目指す生徒の姿】 共生体育

1. 台上での技を維持するためのコツをつかみ、滑らかな技の連続につなげることができる。
2. 平均台運動において「姿勢」を意識することは、健康への効果や豊かなスポーツライフにつながることに理解し、学ぶ意義についてまとめることができる。

+αで、より実生活を実感/ 授業スライドより

生活チェック

- 椅子に座るとき、足を組むクセがある。
- バッグはいつも同じ方の肩にかけている。
- スマートフォンやパソコンを使うことが多い。
- 腕を組んだり、手を腰にあてるとラクに感じる。
- 気がつくと片方の足に体重をかけている。
- ストレスを感じる事が多い。

「姿勢」が崩れ始めると...

- ・人間は、自然と余分な筋力を使ってバランスを保とうとする。
 - 体の背骨や骨盤などの**色々な部位への負担が増え、ますます姿勢が悪くなる。**
- ・悪い姿勢が続くと、血流が滞ったり、さまざまな神経が圧迫されたり、呼吸が浅くなる。
 - **頭痛、めまい、肩こり、腰痛、だるさ等の不調**



「立つ・座る・歩く」姿勢 = 全ての動作の根幹 = 健康な心身の維持

→汎用的知識 + α = 日常生活との関連 = 健幸、共生体育

◆第1ステージ
テーマ **Keeping**

台上での技を「維持」させるには？

基本的な技術の名称の理解、基本的な動きのイメージをつかむ。

台上での技を維持するためのコツやきっかけをつかませるため、各技に関する具体的知識（どのように行うのか）と汎用的知識（何のために行うのか）を理解する。

平均台運動を学ぶ意義についてまとめる。（汎用的知識：日常編）

◆第2ステージ
テーマ **Smoothing**

「滑らかな」技の連続に挑戦しよう！

習得した技の出来映えを高め、それらを組み合わせながら、取り組み方を工夫する。自己や仲間の考えたことを他者に伝える。

◆第3ステージ
テーマ **Elegance**

パフォーマンスステージを創りあげよう！

体力や技能の程度、性別や障害の有無等を超えて、互いの挑戦を認め合う。

平均台運動の魅力についてまとめる。

・足の動き方や力の入れ方が分かった！

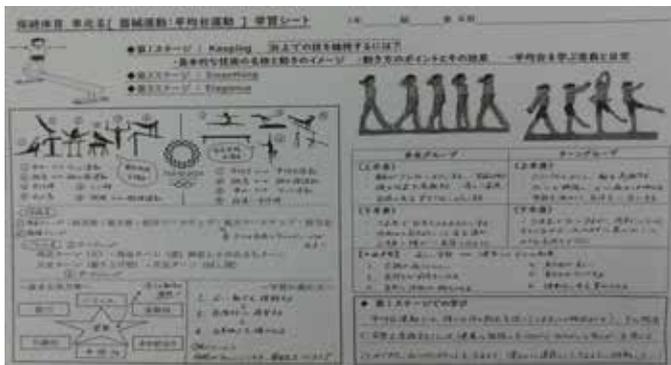
・常に姿勢を意識して、台上でのバランスを保とう！

・次の、滑らかな技の連続につながるコツをつかんだ！

・平均台運動は将来の健康な体づくりにもつながるんだ！

【単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して】
 小学校第1学年及び第2学年では、「器械・器具を使っての運動遊び」において『固定施設（平均台等）を使用し、登り下りや渡り歩き、跳び下り動作』を経験している。また、同年の「体づくりの運動遊び」と第3学年及び第4学年における「体づくり運動」において『体のバランスをとる動き、体を移動する動き』を経験している。しかし、第5学年及び第6学年からは、上記のような技能の記載はなく、中学校で初めて「平均台運動」という単元と出会う。よって、具体的知識の習得はもちろんのこと、汎用的知識と生涯を通じた心身の健康の保持増進を見据えた知識の習得は、学ぶ意義を理解した上での見直しをもった挑戦へつながる。また、次年度以降の器械運動領域における学びに向かう力を、一層加速させるものとする。

時	単元のゴールを見据えた各ステージのねらい
1 ～ 4	<p>第1ステージ 〈テーマ Keeping〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の特性や学び方を理解する。 ・生涯スポーツの観点から、「体操競技」との関連について理解を深める。 ・基本的な技術の名称の理解，基本的な動きのイメージをつかむようにする。 ・オリンピック平均台種目のVTRを視聴し，台上での演技をイメージする。 ・台上での技を維持するためのコツやきっかけをつかませるため，各技に関する具体的知識（どのように行うのか）と，汎用的知識（何のために行うのか：）を理解できるようにする。
5 ～ 8	<p>第2ステージ 〈テーマ Smoothing〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習得した技の出来映えを高め，それらを組み合わせながら，取り組み方を工夫できるようにする。
9 ～ 10	<p>第3ステージ 〈テーマ Elegance〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力や技能の程度，性別や障害の有無等を超えて，挑戦を認め，仲間を援助し，分担した役割を果たせるようにする。 ・互いの演技を認め合えるようにする。 ・単元を通して感じた平均台運動の魅力についてまとめられるようにする。



☞ 単元を“まるっと”見通す学習シートを作成
各ステージのテーマやねらいを理解し、
学びがスタートします！

☞ 木製の低い台に、平均台と同等の幅のテープをはり、
自作平均台の完成！テープから足がそれても、落下
しない安心感のもとで何度も挑戦ができます！



☞ 靴を履いてもOK！
安心ゾーンも設置



全時間の導入【バランスUPドリル】
～Let's enjoy! Dynamic & Rhythmical!～

1. バルーンコップ軍

- ◆ 使用物：風船、紙コップ
- 風船の結び目を親指と人差し指でつまむ。
風船の丸みの上に紙コップを逆さの状態
で置き、維持させながら移動する。
- 移動は、個に応じて変化させる。(ウォー
キング・ランニング・ジグザグコースの使用等)

2. スポンジターン軍

- ◆ 使用物：台所用スポンジ
- スポンジを床に置きその上に片足を乗せる。
→足裏の接地部分を模索しながら、ターン
グループの技の習得につなげる。

3. ランダムトランポリンズ

- ◆ 使用物：トランポリン
- 空いているトランポリンのスペースを見
つけ、片足踏み切りでジャンプする。
- 次年度に習得予定の跳躍グループの技の
感覚を身につけさせる。

4. シッティングバレー団

- ◆ 使用物：室内用グラウンドゴルフの支
柱、スズランテープ、風船
- パラリンピックの正式種目と同様に、
床に臀部の一部が接触した状態でプレー
する。体のあらゆる部位を使ってボール
(風船)に反応し、協力して返球する。
- ネット(スズランテープ)の高さは、男
子と女子の正式な高さの中間とする。
(1m10cm)
- 障がいの有無を問わず挑戦が可能であ
る。

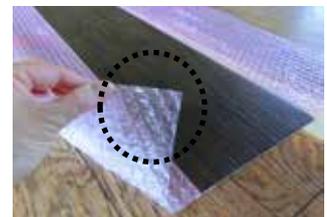
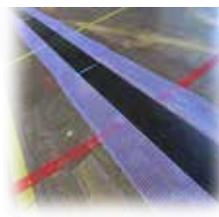
5. バランスボーラーズ

- ◆ 使用物：バランスボール
- バランスボール状に座り、足裏を床か
ら離してバランスを維持するための、両
手の広げ方や力の入れ方を模索しながら
バランス感覚を楽しませる。個に
よって体勢を変化させる。
- 障がいの有無を問わずチャレンジ可能
である。(車椅子使用の生徒たちは、自
宅でも使用中であることを把握)

6. リズミカルジャンパー

- ◆ 使用物：ダブルダッチ用ロープ
- リズム感覚やタイミングをつかむ。
- 車いすでは、ロープをくぐり抜けるも
可。
- ダブルダッチにチャレンジした際
には、跳ぶことだけをねらいとせず、
回し手(ターナー)としての役割であ
る正確な軌道を意識した回し方で上半
身の運動量を高めることも可。

☞ フローリングマットの両端に緩衝材(プチプチ)を取り
付け、自作平面平均台の完成！マットから落下すると足の
感触や、「プチッ」の音で分かります。台上に不安感がある
生徒のみならず、肢体不自由(車椅子使用含む)の生徒たち
も、この自作マットで果敢に挑戦しました！



授業づくりのポイント

授業の流れ	留意事項
1 集合、整列、あいさつ	ポイント① 元気があいさつ 返事は「ハイッ」 ○移動は走る ○ビシッと整列 ○健康チェック、服装チェック
2 準備運動	ポイント② 細かな部分までしっかり意識した準備 ○リズムは教師主導 ○良い部分は誉め、ダメな部分は適正
3 感覚づくりの運動	ポイント③ 主運動につながる感覚づくりの運動(運動量の確保) ○正確な動き ○心拍数の上昇「ハア ハア」 ○友達同士の関わり
4 わらいの確認	ポイント④ 子どもにわかる共通課題の設定 ○運動の系統性を考えた共通課題 ○わかる言葉で ○個の目標
5 主運動	ポイント⑤ 説明は短く、運動は長く【運動時間は32分以上】
	ポイント⑥ 移動は素早く ○意図をもって集合・説明 ○だから運動×
	ポイント⑦ 子どもへの声かけ100回 ○否定より肯定 ○抽象より具体 ○具体の肯定、矯正が good
	ポイント⑧ わらいを達成させるための場づくり ○意味のある場 ○安全な場 ○その場の意味を児童が理解
	ポイント⑨ 見合う時間、教え合う時間の確保(目指す見合い・教え合い) 低学年・・・できていないかを判断する。(○か×か) 中学年・・・どこが良く、どこに課題があるかを見つける。(課題の発見) 高学年・・・学習資料や既習事項を使い、よりよくするための方法を互いに考え教え合う。(教え合い)
6 本時のまとめ	○目指す児童像に合った見合う場 ○C児童への対応(アドバイス) ポイント⑩ わらいに合った振り返り ○自己評価 ○相互評価 ○共通課題に関する達成状況の把握
7 整理運動、あいさつ	ポイント⑪ 子どもの気づきを生かした帰省資料 例: 技のコツ、できない子へのアドバイス、感想、励ましの言葉 等

私の授業実践
埼玉県深谷市教育委員会
鳥塚 源太郎

対話を通して、課題を発見・解決できる体育授業の研究
～高跳びの指導を通して、より高く跳べる児童を育てる授業づくり～

単元及び学習活動に即した評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○高跳びの行い方について知っているとともに、短い助走から踏み切って跳ぶことを身に付けている。	○自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、考えたことを他者に伝えている。	○高跳びの楽しさや喜びに触れることができるよう、高跳びに進んで取り組もうとしている。
学習活動に即した評価規準	①決められた足で踏み切ることができる。 ②短い助走から強く踏み切って高く跳ぶことができる。 ③膝を柔らかく曲げ、足から着地できる。	①高跳びの動きを身に付けるための練習について、自分の課題に合った場を選んでいる。 ②助走のリズムや踏み切りの強さについて、友達の動きの良さを見付け、伝えている。	①動きができるようになるために、練習に進んで取り組もうとしている。 ②運動の行い方のきまりを守り、自分の試技を見てもらったり、友達にアドバイスをしたりしながら、自分の記録や勝敗を受け入れようとしている。 ③協力して準備や片付けを行ったり、安全を確かめたりしながら運動している。

単元の計画

時	1	2	3	4	5	6	7	8																				
ねらい	安全に気をつけながら、友達と協力して、高跳びをしよう	いろいろなものを跳んで、足から着地しよう	3歩助走で、自分の利き足を見付けて跳ぼう	友達のを助走の踏み切りをよく見付けて伝えよう	強く踏み切り、高く跳ぼう	より高く跳ぶために、練習の考えよう	学習してきたことをもとに友達にアドバイスしよう	自分の新記録に挑戦しよう																				
指導の内容	・学習の進め方・約束・準備、片付けの方法 ・感覚づくりの運動の行い方 ・学習カードの記入について	・膝を十分に曲げて足からの安全な着地	・利き足での踏み切り ・3歩での助走	・3歩での助走 ・最後のピッチが上がる助走	・最後の2歩を意識した助走 ・強い踏み切り	・5歩での助走 ・場の選択方法	・5歩での助走 ・アドバイスの仕方	・助走、踏み切り、着地連の動き																				
学習過程	<p>1 集合、整列、挨拶、健康確認をする。 2 準備運動をする。 ○リズムスキップ ○8の字ゴム跳び など</p> <p>3 感覚づくりの運動をする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>運動名</th> <th>身に付けさせたい力</th> <th>期待できる関わり合い</th> <th>動き発達の判断目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①コインゲッタージャンプ(目標物へのタッチ)</td> <td>利き足での踏み切り/3歩のリズム</td> <td>リズムを取り合う・ハイタッチ</td> <td>利き足で踏み切っている レッツ・ゴーのリズムがとれている</td> </tr> <tr> <td>②リボーンジャンプ(ミニハードルを越えながら)</td> <td>地面を渡る感覚/空中での姿勢</td> <td>リズムを取り合う・膝の伸びを見合う</td> <td>空中で身体(腕から足)が一線になっている</td> </tr> <tr> <td>③土管ジャンプ(カンパニジャンプ)</td> <td>地面を渡る感覚/3歩のリズム</td> <td>リズムを取り合う・ハイタッチ</td> <td>ケンステップに入っている レッツ・ゴーのリズムがとれている</td> </tr> <tr> <td>④1歩ジャンプ(踏み切り板を越える高跳び)</td> <td>強い踏み切り/膝の引き付け</td> <td>リズムを取り合う・膝の引き付けを見合う</td> <td>踏み切り板の音が聞こえる 踏み切り後、踏み切り足の膝を引き付けている</td> </tr> </tbody> </table> <p>※グループで4つの場を3分ごとにローテーションする。</p> <p>4 本時のねらいを確認する。 4 本時のねらいを確認する。</p> <p>5 技術オリエンテーションを行う。 ・膝が伸びる感覚 ・踏み切り板を越える高跳び</p> <p>6 試しの運動を行う。 ・記録測定 ※運動の約束を確認しながら行う。</p> <p>7 本時のまとめをする。 ・学習カードへの記入 ・わらいに合った振り返り ・次時の学習予告</p> <p>8 整理運動、挨拶をする。</p> <p>9 片付けをする。</p>								運動名	身に付けさせたい力	期待できる関わり合い	動き発達の判断目安	①コインゲッタージャンプ(目標物へのタッチ)	利き足での踏み切り/3歩のリズム	リズムを取り合う・ハイタッチ	利き足で踏み切っている レッツ・ゴーのリズムがとれている	②リボーンジャンプ(ミニハードルを越えながら)	地面を渡る感覚/空中での姿勢	リズムを取り合う・膝の伸びを見合う	空中で身体(腕から足)が一線になっている	③土管ジャンプ(カンパニジャンプ)	地面を渡る感覚/3歩のリズム	リズムを取り合う・ハイタッチ	ケンステップに入っている レッツ・ゴーのリズムがとれている	④1歩ジャンプ(踏み切り板を越える高跳び)	強い踏み切り/膝の引き付け	リズムを取り合う・膝の引き付けを見合う	踏み切り板の音が聞こえる 踏み切り後、踏み切り足の膝を引き付けている
運動名	身に付けさせたい力	期待できる関わり合い	動き発達の判断目安																									
①コインゲッタージャンプ(目標物へのタッチ)	利き足での踏み切り/3歩のリズム	リズムを取り合う・ハイタッチ	利き足で踏み切っている レッツ・ゴーのリズムがとれている																									
②リボーンジャンプ(ミニハードルを越えながら)	地面を渡る感覚/空中での姿勢	リズムを取り合う・膝の伸びを見合う	空中で身体(腕から足)が一線になっている																									
③土管ジャンプ(カンパニジャンプ)	地面を渡る感覚/3歩のリズム	リズムを取り合う・ハイタッチ	ケンステップに入っている レッツ・ゴーのリズムがとれている																									
④1歩ジャンプ(踏み切り板を越える高跳び)	強い踏み切り/膝の引き付け	リズムを取り合う・膝の引き付けを見合う	踏み切り板の音が聞こえる 踏み切り後、踏み切り足の膝を引き付けている																									
評価	③	①	①	②	②	①	②	①																				
学習資料	③	①	①	②	②	①	②	①																				
学習カード	③	①	①	②	②	①	②	①																				
学習時間	5・6	6・5	6・7	6	6・7	6	6	6・7																				

安全面を重視するために、2時間目には着地について指導した。その後、3時間目には自分の踏み切り足を見付け、4時間目に友達同士の見合いから助走のリズムの重要性に気付けるようにした。そして、5時間目の踏み切り動作について学んだ後、6・7時間目には、それまで学習したことを踏まえ、自らの課題を解決する時間を設定した。ここでは練習の場を考えると友達が動きを見合い、アドバイスすることをねらいとして設定した。

実践の様子

【ねらいとする児童の姿】

- ・児童が高く跳ぶためのコツを理解し、その技能を身に付けている姿(助走のリズム・踏切り足・安全な着地)
- ・児童が活発に関わり合う中で、自らの課題を発見し、解決している姿
- ・安全に留意しながら、自分の目標やクラスの目標達成に向け、意欲的に挑戦している姿

具体的な手立て

①課題発見につながる見合う活動の取り入れ ★見合いやすくするための手立てを工夫する



口伴奏の取り入れ
(最後の2歩「ツ・ゴー」を速く)



踏切り足にリストバンドを着用
(自分の意識・見合いの視点・評価の視点)



自分の跳躍を確認できる ICT
(動画遅延再生アプリ「はなまるフォーム」を使用)

②課題解決につながる時間や場の確保 ★何が身に付けられる場なのか児童との共通理解を図る

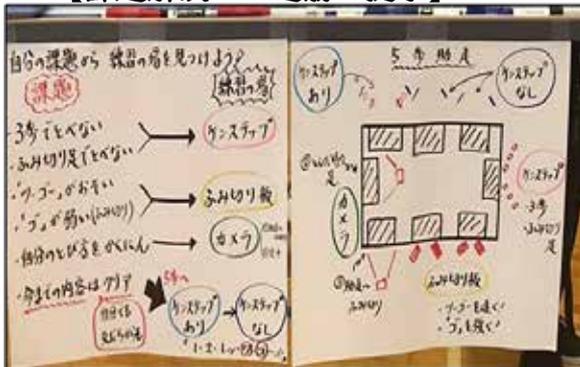
【課題解決の時間】

	第6時	第7時
ねらい	高跳びの動きを身に付けるための練習について、自分の課題に合った場を選んでいる。 【思考力・判断力・表現力等】	運動の行い方のきまりを守り、自分の試技を見てもらったり、友達にアドバイスをしたりしながら、自分の記録や勝敗を受け入れようとしている。【学びに向かう力、人間性等】
児童への提示	より高く跳ぶために、練習の場を考えよう。	学習してきたことをもとに友達にアドバイスしよう。
指導内容	・5歩での助走 ・場の選択方法	・5歩での助走 ・アドバイスの仕方(見る視点の確認)

【課題解決の場】

【場の名称】	【ケンステップ】	【踏切り板】
児童の課題	3歩で跳べない 踏切り足で跳べない	最後の2歩が遅い 踏切りが弱い
見合うポイント	レッ・ツ・ゴーで跳べている バンドの足で跳べている	ツゴーが速くなっている 強い音になっている
実際の写真		

【課題解決への道筋の提示】



【カメラ】	【5歩助走(ケンステップあり)】	【5歩助走(ケンステップなし)】
自分の跳ぶ様子を確認	今までの学習内容ができ、助走を伸ばしたい	今までの学習内容ができ、助走を伸ばしたい
今まで学習してきたポイント	「レッツゴー」のリズム	「レッツゴー」のリズム

③「できた」が実感できる教具 ★達成基準を明確化(見える化・聞こえる化)する

運動の場	達成基準	写真	詳細	運動の場	達成基準	写真	詳細
コインゲットジャンプ (感覚づくりの運動)	コインをタッチして音が鳴れば達成 【聞こえる化】		目標物(コイン)に鈴を取り付け、タッチすると音が鳴るようにした。	土管ジャンプ (感覚づくりの運動)	ジャンプして、ゴムにかからず跳べれば達成 【見える化】		最後の1歩の間に20cmの高さでゴムを張り、それを越えるようにした。
土管ジャンプ (感覚づくりの運動)	ジャンプして、ケンステップに届けば達成 【見える化】		ケンステップを配置して、それを目標物にした。また、どちらの足で行うか分かりやすいように色分けした。	高跳びの場合全て	跳んだとき、カードが落ちなければ成功 【見える化】		A4の用紙をラミネートし、半分に折って、ゴムのバーの上に置いた。(ビーチカード)

パスをもらうための動きを段階的に身に付ける ワンドリブルバスケットボールの実践

渡邊 芳哉 胎内市立中条小学校（新潟県）

授業づくり

○単元を計画・構築するにあたって重点をおいていること

単元で扱う運動の特性を授業者が正確に理解し、その楽しさを児童が十分に味わえるようにすることは大切である。運動の中の課題になりうる動きや思考を授業者が把握し、児童の実態に照らし合わせていく。児童の困り感と欲求の流れを予想し、単元の学習過程を構築していく。また、技能発揮の難しさを調整し、児童の学びを焦点化させるために、前提となる単元の場合や教具、ルールなどを設定していく。

今回のバスケットボールの実践は、「パスをもらうための動き」の習得に焦点を当て行おうとした。しかし、ゲームの中では、様々な

因子が絡み合う状況下で、瞬間での状況判断をしなければならぬ。パスをもらうためには、動き方や、動き出しのタイミングなどの沢山の選択肢がある。結果として、児童は動けずに困ってしまう。本実践では、**ルールと学習過程の工夫**を通して、課題を焦点化し思考を限定させて学ぶことで、確実に「パスをもらうための動き」を身に付けようとした。

○子どもたちの指導、働きかけ等で特に心がけたり、実践していること

限られた授業時間の中で、十分な運動量を確保しながら思考し、気づきを増やせるように、授業マネージメントや学習規律を大切にしている。学年の最初の時期に、話の聞き方、集まり方、道具の準備等の指導を徹底している。

○課題を焦点化し思考を限定させて学ぶための課題解決の方策

① ワンドリブルルール

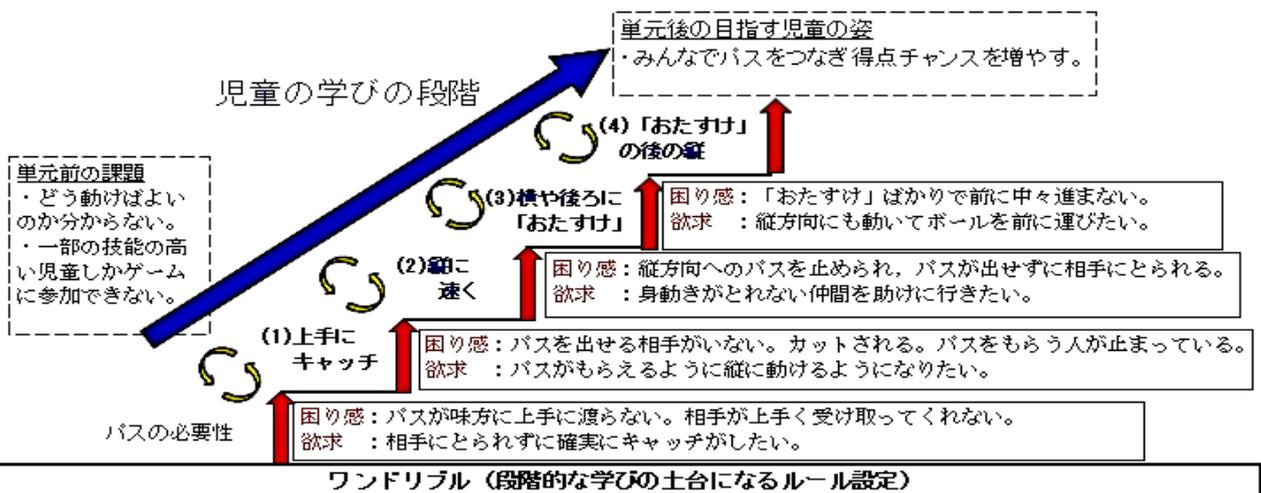
ドリブルの回数に限定をかける意図

- 全員がパスを使って攻撃に参加する必要性を高めるため
→ドリブルの技能差がなく、個人では攻撃が成り立たない状況を作り出そうと考えた。
- 動き出しのタイミングに迷いを無くし「パスをもらうための動き」に課題を焦点化するため
→ドリブルに制限があることで、選択肢は、「シュート」か「パス」しかなくなる。味方がボールをキャッチしたときにパスのタイミングで、周りの児童の動き出しのタイミングとなる。児童は、その瞬間を迷うことが少なくなり、課題を「パスをもらうための動き」に焦点化することができる。

ドリブル無しではなくワンドリブルにする意図

- ボール保持者の「パス」や「シュート」までの技能的な課題を解消するため
※児童の実態から以下の3つの必要性を感じたから。
「パスするためにディフェンスをかかわす・引きつけるワンドリブル」
「シュートのために前進するワンドリブル」
「ボールのキャッチングや周りを見ることへの余裕を作り出すワンドリブル」

②「パスをもらうための動き」を段階的に学ぶ学習過程（課題を焦点化しPDCAで学ぶ）



○授業者渡邊が考える「パスをもらう局面の動き」 ※4段階に分け習得していく。

- 1段階・・・上手にキャッチするための動き
 - ・守りをふりきる（かわす）
 - ・パスに向かってキャッチ（前でキャッチ）
- 2段階・・・縦方向に速く攻撃を展開するための動き
 - ・空いている前のスペースに走る（スペース）
 - ・パスしたら前にすぐ走る（パス&ラン）
- 3段階・・・横や後ろ方向にサポート（おたすけ）するための動き
 - ・味方が苦しくてパスが出せないときに助けに行く（おたすけ）
- 4段階・・・サポート（おたすけ）と縦方向への攻撃を結びつけた動き
 - ・「おたすけ」と「スペース」や「パス&ラン」を組み合わせる。



実践の様子

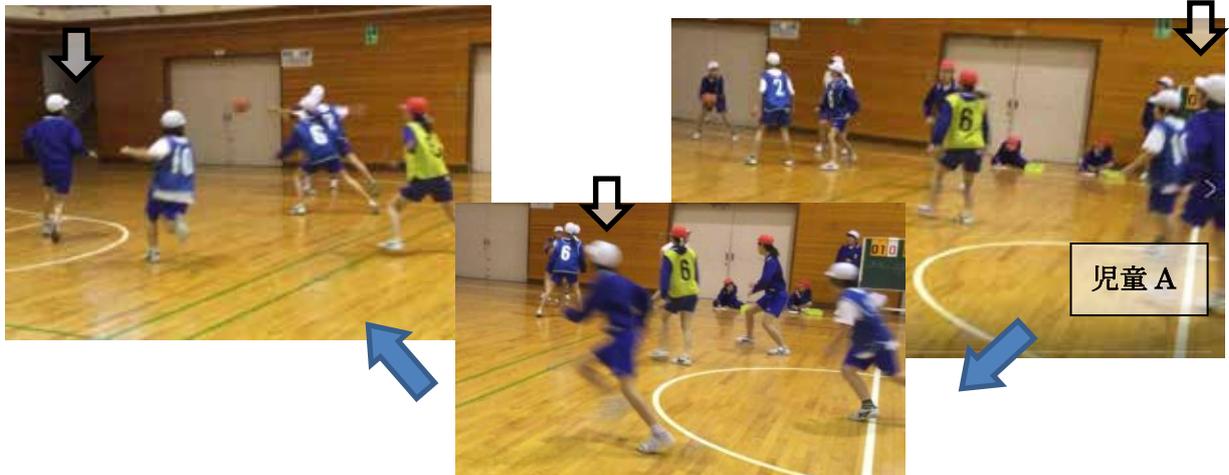
児童の気づきや困り感を基に、各時間の課題を焦点化することで、児童が意識する動きを限定していく。段階的に課題に向き合うことで確実に動きを習得していった。

また、その学びを支えるために毎時間、P（前回の動画から課題把握とプラン）・D（ゲームで試す）・C（チームや全体での確認）・A（ゲームで修正）のサイクルの授業を展開していく。

○実際の授業の場面（3段階横や後ろ方向にサポート（おたすけ）するための動きを身に付ける）

前時は、2段階目で「縦方向に速く攻撃するための動き」を身に付けたが、ディフェンスが対応してきたことで縦方向の攻撃が防がれるようになった。前時に出了新たな課題「縦へのパスが止められたとき、味方はどう動けばよいのか。」を解決する視点でこの授業を進めた。味方が苦しくてパスが出せないときに助けに行く動きが頻発するようになり、ディフェンスにボールをとられることが少なくなった。しかし、パスの本数ばかりが増え前になかなか進まない状況が生まれ、次時の4段階目で解決する新たな課題となった。

	P	D	C	A	新たな課題
教師の確認と問い	・縦へのパスが止められたとき、味方はどう動けばよいのか。	・パスが出せずに困っている味方がいたら、助けに行くことを意識してゲームをしよう。	・「おたすけ」は大事だね。 ・また、パスがつながるようになってきたけど、ディフェンスなんとかならないかな。	・ディフェンスは、もっとピタリついてパスを出させないように意識してゲームをしよう。 (ディフェンスへのアドバイス)	前に「おたすけ」ばかりで進めないのはなぜか。
児童の反応と変容	・前には出せないから、ボールを持っている人を助けに行く。	(パスが出せずに困っている味方に対して) ・横や後ろに近づいてパスをもらう動きが出てきた。 ・敵にボールを奪われずに攻められるようになった。	・もっとピタリついて、パスを出させないようにする。	・ディフェンスが激しくなったので、「おたすけ」を繰り返しパスの本数ばかりが増え、ゴールまで運べない場面が増えた。 ○「おたすけ」した後に、味方が「スペース」や「パス&ラン」をして前に進もうとする動きが出てきた。	



上の写真の場面は、ディフェンスに阻まれボールが上手く運べなくなった場面で、矢印の児童Aが「おたすけ」に行くことで相手に奪われずにボールを運ぶことができた。その後、攻撃が展開していく。

授業実践紹介

卒業後のスポーツライフの充実を目指した授業実践

～体づくり運動を通して～

上村 紘史 宮崎県立宮崎中央支援学校（宮崎県）

授業づくりのポイント

保健体育の授業で学習したことを生活の中で汎用させることは、豊かなスポーツライフを実現させるためには重要である。そこで、授業の中で一人ひとりの実態に応じた運動プログラムを作成し、長期休暇等を利用してながら保護者と連携し実践しながら取り組み、改善していくことで卒業後も継続して運動し、健康な体を育成する。

【実践の成果】

- （１）カリキュラム・マネジメントの工夫
 - ・高等部3カ年の単元計画を作成することで、ティームティーチングを行う際に、授業に入る教師も見通しがもて、連携を図ることができた。
- （２）教材教具の工夫
 - ① 「特別支援学校版ひなたプログラム」の作成
 - ・事例集及び動画集を作成することで、生徒が選択する際に運動の強度を分かりやすく示すことができ、主体性が高まった。また運動強度に☆マークをつけることで実態に合った運動負荷で取り組むことができた。
 - ② 「やったぜ！カード」の作成
 - ・長期休暇中は、卒業後の生活に直結する機会と捉え、保護者とともに取り組み、最後に保護者のコメントをもらうことで連携し改善を図ることができた。
- （３）学習カードの工夫
 - ・学習の定着や習熟度を単元毎に評価することができた。

体づくり運動3カ年計画

学年	1年（入学年次）/10時間	2年（その次の年次）/7時間	3年（それ以降の年次）/10時間
テーマ	「総復習（学びなおし）」	○集団（チーム）	○個人（実態別）
目標	「日常的に取り組める運動の計画を立ててみよう」	「手軽に行える運動を考えよう」	「実生活に生かすことができる運動の計画を立てよう」
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○レディネステスト（アンケート） ○体カテスト ○健康カード ○復習（学びなおし） ○家庭との連携（保護者アンケート） ○長期休暇健康チェックカード 	<ul style="list-style-type: none"> ○体カテスト ○健康カード ○「タオル」を使った運動 ○家庭との連携 ○長期休暇「やったぜ！カード」 	<ul style="list-style-type: none"> ○体カテスト ○健康カード ○復習（学びなおし） ○家庭との連携 <ul style="list-style-type: none"> ○長期休暇「やったぜ！カード」 ○知識に関する学習「実生活への取り入れ方」について確認する。 ○それぞれのねらいに応じた運動の計画を立て、実践する。 ○卒業後の体重カレンダーの配布

導入

「健康観察」「チーム体操」



チームの健康観察係を中心に出席確認及び健康観察を行う。健康状態が優れない生徒については、直接教師が健康状態を確認する。チーム体操は、チームで考えた体操を音楽に合わせて取り組ませることで主体性を育む。また、導入の内容を毎時間統一することで学習の見通しをもたせ、情緒の安定につなげる。

展開

「特別支援学校版ひなたプログラム」の作成



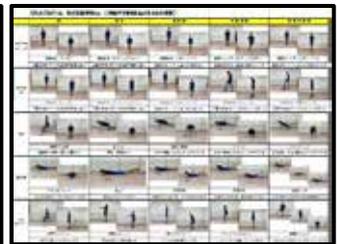
体の柔らかさ



力強い動き



巧みな動き



持続する動き

「体の動きを高める運動」の「体の柔らかさ」、「巧みな動き」、「力強い動き」、「動きを持続する能力を高めるための運動」の4つの動きからそれぞれ運動を選択させる。生徒が選択する運動の強度を分かりやすく示すために本校独自に作成した「特別支援学校版ひなたプログラム」(事例集及びタブレット端末を用いた動画集)を活用する。本プログラムは、運動強度毎に☆1～☆5の5段階に設定されている(☆の数が多い程、負荷が大きい)。運動を組み立てる際には、選択した4つの運動の☆の合計がAグループは☆12以上、Bグループは☆8以上、Cグループは☆4以上になるよう条件をつけることで、実態に合った運動の負荷を分かりやすくした。

まとめ



実態別に3種類の学習カードを準備する。学習カードへの記録や自己評価を行い、それぞれのグループ付きの教師からその日の MVP を発表したり生徒から感想を発表させたりする。自分たちで考えた運動が卒業後、休日に自宅で手軽に行いスポーツライフの充実へつながるよう意欲を高めていく。

第六十回 全国学校体育研究大会 愛媛大会開催を終えて

愛媛大会実行委員会 会長 中川 祐二



第六十回にして愛媛で初めての大会を、史上初となる「誌上・ウェブ開催」方式で盛大に開催することができ、本県の大会関係者一同、安堵感と充実感に包まれる思いに浸っているところであります。ひとえに、スポーツ庁並びに（公財）日本学校体育研究連合会の皆様方をはじめ、御講演や御提言を賜りました皆様方、研究指定として授業提案をしていただいた各校園の関係の先生方、大会の企画段階から直接運営に関わっていただいた先生方、撮影と配信を担っていたいただいた愛媛CATVの皆様方；、数えきれないほど大勢の方々のおかげであると、衷心より深く感謝申し上げます。

大会が、学習指導要領の全面実施真つただ中での開催であったことにも、研究内容の発信の価値が高まった要因であったと実感しています。各校園が、これまでの研究実践を基盤とし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をどのように進めるか、指導と評価の一体化が一層促された授業とはいかなるものなのか、追究の指標を明確にして研究を進めてきました。その根底には、すべての校種において「愛顔（えがお）あふれる子供」の姿がありました。そこから生まれたのが、研究主題『主体的・対話的で深い学びを通して、未来につなぐ体育・保健体育学習―仲間とともに「愛顔（えがお）で挑戦する授業の実現」―』でした。どの校種においても、毎時間、子供の「愛顔（えがお）」があふれる体育・保健体育学習を想定して、授業実践を積み重ねてきました。その成果の一端を、大会で披露させていただきます。「愛媛

大会報告書」に掲載させていただきました。運動の二極化が唱え始められてからかなりの年月が経過していますが、今学校では、運動・スポーツ離れをしている子供が急増しているのが現状です。しかし、令和四年三月に策定された「第三期スポーツ基本計画」に示されている通り、「生涯にわたって運動・スポーツを継続したい児童・生徒」の割合が、八割を超えているのも事実です。今、子供たちが何を望んでいるのか、どのような未来を想定しているのか、真摯に向き合っているのか、真摯に必要があり教育を創造していく必要があります。その上で、目の前の子供の実態及び発達段階に即して、生涯を通じて豊かなスポーツライフの確立を目指した体育・保健体育学習の在り方が求められています。

今年度より本県では、県教育委員会が主体となって「第二期子どもの体力・運動能力向上推進三か年計画」を策定しました。この事業では、子供のコロナ禍での運動機会の減少やスクリーンタイムの増加など、社会環境の変化に対し、体育・保健体育学習の充実を図るとともに、校園と関係機関が一体となり、子供の豊かな人間性や健康・体力など、生きる力を育むことを目指してまいります。

また、今後求めていきたいのが、特別支援学校を含めた幼稚園から高等学校までの系統的な体育・保健体育学習の確立です。そこでは、今大会の授業改善の柱にも設定しました「共生の視点」に立った授業づくりがポイントの一つになると考えています。その手立てとして、すべての子供にとって「やさしい体育授業」を、追究し続けたいと思います。今回いただいた機会をきっかけに、校種間のつながりや歩み寄りを意識した取組を推進していく中で、今後の研究の価値を見いだしてまいります。

す。本県では、毎年定期的な小・中・高体連の連絡会を行っています。それぞれの校種でも独自の研究を推進していますが、今後、この連絡会を活用して、研究面でのつながりの強化及び一層の歩み寄りを図っていきたくと考えています。

本大会で得られた成果を基に、発展的な取組を進める中で、大会を開催した真価が問われると肝に銘じております。さらに、本県における今後も地道な継続研究の成果を発信し、愛媛のみならず、全国の子供の「愛顔（えがお）」の表出につながることで、愛媛大会を支えていただいたすべての方々へ、感謝の意を伝えることになると思います。

結びに、今年度の滋賀大会以降の全国大会において、未来につながる体育・保健体育学習が更なる躍進を遂げられることを心より御祈念申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

第六十一回 全国学校体育研究大会 滋賀大会開催にあたって

滋賀大会実行委員会 会長 野村 智洋



第六十一回全国学校体育研究大会滋賀大会を開催するにあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

まず初めに、長年にわたって学校体育発展にご尽力を重ねてこられ、本日表彰を受けられます学校並びに体育指導者の皆様に、心よりお祝い申し上げます。また、スポーツ庁、日本学校体育研究連合会の皆様をはじめ全国各地より、母なる湖、琵琶湖を擁します滋賀へ、ようこそお越しいただきました。心より歓迎申し上げます。

さて、皆様もご承知のとおり、一昨年度の福井大会、昨年度の愛媛大会は、新型コロナウイルス感染症の全国的な蔓延の影響で、参加形式での開催ができませんでした。このような未曾有

の状況の中ではありませんでしたが、各大会の実行委員会の皆様のご尽力によって、誌上開催やオンライン方式で開催していただきました。あらためて関係の皆様には敬意を表します。滋賀大会では、今まで大会を支えてこられた皆様の学校体育への熱き思いを受け継ぎ、不測の事態に備え、参加形式でのハイブリット型を想定するなどして、準備を進めてまいりました。本大会の開催に向け、ご指導、ご支援を賜りましたスポーツ庁並びに日本学校体育研究連合会の皆様に、衷心より感謝申し上げます。

このコロナ禍での対応のように、予測が難しいこれからの時代を生きる子供たちは、答えのない問いにどう立ち向かうのか。目の前の事象から解決すべき課題を発見し、主体的に考え、他者と協働して課題を解決し、自分たちが納得できる答えを生み出す力が一層強く求められていると考えております。

これに向けて平成二十九・三

十年告示の学習指導要領では、児童・生徒が身に付けるべき資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し、その内容等の改善が図られました。加えて児童・生徒が各教科の「見方・考え方」を働かせながら学びを進められるように指導を改善すること、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが示されました。体育・保健体育科においては、明るく豊かで活力ある生活を営むために、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することが重要となります。また、昨年度までには、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の小学校部・中学校部において学習指導要領（幼稚園教育要領）が全面实施され、本年度は、全ての校園種において学習指導要領が実施される年であり、その趣旨を踏まえ、指導内容の系統性を重視し

第1分科会	大津市立平野幼稚園
<公開授業領域> 自ら取り組むあそび ～体と心をはずませてあそぼう～	
<分科会研究主題> 「やってみたい 楽しいな もっとやりたいな」 ～いろいろな動きを楽しみ、弾む体と心の育成を目指して～	
<保育の見どころ> 体の動かし方に視点をもった幼児理解や、様々な体の動かし方の経験を引き出す環境の工夫、自己充実感や次への意欲を引き出す教師の支援を意識した保育を目指しています。	
<保育者の思い・意気込み> 3歳児：体を動かしてリズムをとったり自由に表現したりし、体全体で様々な感覚を動かさせ、楽しむ姿をご覧ください。 4歳児：やりたいことに向けて考えたり試したりし、自分なりにできた喜びや楽しさを味わう姿をご覧ください。 5歳児：友だちとイメージや目的を共有する中で、思いや考えを伝え合いながら意欲的に遊ぶ子どもたちの姿をご覧ください。	
<指導助言者> 滋賀大学 教授 奥田 援史	

第2分科会	大津市立瀬田東小学校
<公開授業領域> ①ゲーム（鬼遊び） ②器械運動（マット運動） ③ボール運動（タグラグビー）	
<分科会研究主題> 主体的・対話的な学習活動を通して、共に高め合い夢中になっていく体育科学習 ～学びをつなぎ、子どもをつなぐ単元デザイン～	
<授業の見どころ> 「ジョイント学習」を通して、学びをつなぎ、子ども同士をつないでいくことで、体育が得意な子どもも苦手な子ども、みんなが夢中になっていく授業を目指します。	
<授業者の思い・意気込み> ①児童の気付きから授業を進めます。友達の良い動きを取り入れながら、協力する楽しさを見つけ、交流する姿をぜひご覧ください。 ②児童の考えがつながるように単元を進めていきます。自分の課題を見つけ、友達と交流しながらうまくやっていけるようにします。 ③ジョイント学習で授業と授業をつないで、単元を進めていきます。チームで作戦を共有し、学び合いながら課題をクリアしていけるようにしたいと思います。	
<指導助言者> びわこ学院大学 准教授 深田 直宏	

第3分科会	大津市立平野小学校
<公開授業領域> ①体づくりの運動遊び ②陸上運動（ハードル走） ③器械運動（跳び箱運動）	
<分科会研究主題> 「できた！わかった！もっとこうしたい！」 ～全ての子が学びを深める単元デザイン～	
<授業の見どころ> 運動が苦手な児童や意欲的でない児童への支援を中心に据え、「全ての子」が主体的に学習に取り組み、学びを深められるような単元をデザインしていきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> ①子どもたちは様々なコースに取り組み、その経験を生かして自分たちでコースを作って運動遊びに没頭していきます。 ②リズムカルにハードルを走り越える気持ちよさが味わえるような課題を設定します。自己の課題解決に向けて、練習方法を選び活動する姿をご覧ください。 ③教師と子どもたち一人ひとりが、ICTを効果的に活用しながら単元の学習を進めていきます。自己の課題を把握し、子どもたちが課題解決に向けて、友だちと関わり合いながら活動する姿をぜひご覧ください。	
<指導助言者> 日本大学 教授 水島 宏一	

第4分科会	草津市立老上西小学校
<公開授業領域> ①器械・器具を使っの運動遊び（跳び箱を使った運動遊び）②保健（体の発育・発達）③体づくり運動（体の動きを高める運動）	
<分科会研究主題> 主体的な学びが生まれる学習をめざして ～子どもの困り感から共に学ぶ授業を創る～	
<授業の見どころ> 研究の柱である「困り感」と「共学び」の2つのキーワードを基に、子どもが主体的、対話的な学びを目指すことで、深い学びを実現する体育の授業を目指しています。	
<授業者の思い・意気込み> ①中学年以降の跳び箱運動に必要な基礎的な動きを身に付けることを目指します。「忍者修行」の世界に浸りながら、自分にあった様々な術に挑戦する子どもたちの姿をご覧ください。 ②単元を通して、よりよい発育・発達のために子どもたちが課題をいかに自分事として捉え、解決していけるのかということを目指します。 ③ラダーとシステムポールを使い、共学びしながら、巧みな動きを高めるようなオリジナル運動をつくる姿をご覧ください。	
<指導助言者> 帝京大学 教授 高田 彬成	

第5分科会	滋賀大学教育学部附属小学校
<公開授業領域> ①ゲーム（ゴール型ゲーム） ②表現運動（表現）	
<分科会研究主題> 遊びを拡張させていく中で、互いの身体と対話し合い、動きを調整していく体育科学学習 ～発達のまとまりから探究のプロセスを探る～	
<授業の見どころ> 各学年の探究の姿を思い描きながら、単元を4つの視点（ひらく・つたえあう・みきわめる・ととのえる）で単元を構想し、個別最適な学びを支える手立てのもと、どの子ども運動の見方や考え方を更新して動きを調整していく体育科学学習を目指しています。	
<授業者の思い・意気込み> ①友達と協力してボールを運んだり、攻撃を防いだりすることを楽しみながら、「どうすればもっと得点が取れるのか」を探究します。ボールを持たないときの動きを工夫したり、型に応じた簡単な作戦を選んだりして課題解決に向かう姿をご覧ください。 ②子ども達が「情景が相手に伝わるように表現したい!」という思いを増幅させて表現をつくっていきます。「もっと強調するには?」とイメージと動きとをつなげて学びを修正したり、互いの動きを捉え合っ て高まりを認知したりする姿をご覧ください。	
<指導助言者> 滋賀大学 教授 辻 延浩	

第6分科会	大津市立志賀中学校
<公開授業領域> ①球技（ゴール型：バスケットボール） ②武道（柔道）	
<分科会研究主題> 『心豊かに、たくましく生きる生徒を育成する学校体育の在り方』 ～生徒一人ひとりが課題発見・解決を目指して意欲的に取り組む授業の工夫～	
<授業の見どころ> 課題発見ツールを用いて自分たちの課題を自覚し、協力しながら自分たちの力で課題を解決していける授業をデザインしていきたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> ①前時での試合を分析し、チームごとに自分たちの課題を見つけ、解決するための練習をしていきます。協力して課題に取り組む姿をご覧ください。 ②生徒一人ひとりが自己の課題解決に向けて練習方法を選択し、ペアやグループで学び合いながら活動する姿をご覧ください。	
<指導助言者> 横浜市教育委員会 学校教育企画部 小中学校企画課長 根岸 淳	

第7分科会	草津市立老上中学校
<公開授業領域> ①球技（ネット型：バドミントン） ②保健（心身の機能の発達と心の健康） 「欲求やストレスとの対処と心の健康」	
<分科会研究主題> 心豊かに、たくましく生きる生徒を育成する学校体育の在り方 ～よく動き、よく考え、みんなで楽しい保健体育を目指して～	
<授業の見どころ> 主体的に仲間とコミュニケーションを図り、「よく動き、よく考え」ながら課題を発見、合理的な解決に向けた授業を実施していきたいと思ひます。	
<授業者の思い・意気込み> ①自己やペアの動きについてICT端末を使用しながら客観的に分析していきます。その上で、課題の解決へ向け仲間と協力する姿や、ペアで息を合わせてシャトルを相手のコートに返す姿をご覧ください。 ②男女混合の話合い活動を取り入れながら、発表時に視覚的教材（ICT）を利用し、一度に様々な意見を知ることができるようにします。また、実生活につながる学習を実施し、体感して再び意見交流ができるようにしています。	
<指導助言者> 愛媛大学 教授 日野 克博	

第8分科会	滋賀大学教育学部附属中学校
<公開授業領域> ①ダンス（現代的なリズムのダンス） ②体育理論（運動やスポーツの多様性）	
<分科会研究主題> 『心豊かに、たくましく生きる生徒を育成する学校体育の在り方』 ～よく動き、よく考え、みんなで楽しい体育を目指して～	
<授業の見どころ> ①ダンス…互いに助け合い教え合おうとしている生徒の姿や作品や発表などの話合いに貢献しようとしている生徒の姿 ②体育理論…運動やスポーツに対する多角的な視点からの気づき	
<授業者の思い・意気込み> 対面形式での3年ぶりの全国大会に向けて、多くの先生方からのご指導・ご助言をよろしくお祈いします。	
<指導助言者> 同志社女子大学 教授 梅垣 明美	

第9分科会	滋賀県立石山高等学校
<p><公開授業領域></p> <p>①球技（ネット型：バドミントン） ②保健（現代社会と健康）「現代の感染症とその予防」</p>	
<p><分科会研究主題></p> <p>①「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり研究」～球技領域〔ネット型〕バドミントンのダブルスにおけるセオリー学習を通して～ ②「意思決定行動選択の観点から考える保健学習」</p>	
<p><授業の見どころ></p> <p>①セオリー学習を核とした単元計画において、勝敗を競うだけでなく、競技の専門的な戦術を生徒自らが学んでいけるような授業を目指したいと考えています。 ②意思決定行動選択の観点から現代の感染症とその予防について学びを深める授業を目指したいと考えています。</p>	
<p><授業者の思い・意気込み></p> <p>①生徒が「わかって、できた」という達成感や専門的な動きへの好奇心、そして何より体を動かす楽しさを自分たちで味わえるように一生懸命サポートしたいと思います。 ②日々試行錯誤しております。見学していただいて、ご意見やアドバイスがいただければと思います。</p>	
<p><指導助言者></p> <p>早稲田大学 准教授 吉永 武史</p>	

第10分科会	滋賀県立草津東高等学校
<p><公開授業領域></p> <p>①球技（ゴール型：サッカー） ②陸上競技（ハードル走） ③体育理論（豊かなスポーツライフの設計の仕方）</p>	
<p><分科会研究主題></p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり研究</p>	
<p><授業の見どころ></p> <p>①セオリー学習を通して男女共習による学び合う活動 ②男女共習による学び合う活動 ③協働的に授業参加している生徒の学習活動</p>	
<p><授業者の思い・意気込み></p> <p>①指導内容を明確にすることで、「わかる」と「できる」を結びつけ、「自己有用感」を高める授業をしたい。 ②ハードル走の魅力を感じ、「わかる」を得る姿や「できる」を実感できる姿を見出せる授業にしたい。 ③ペアワークやグループワークを設定し、他者の意見を聞き、新たな考えを生徒が見出せる授業にしたい。</p>	
<p><指導助言者></p> <p>群馬大学 准教授 鬼澤 陽子</p>	

第11分科会	滋賀県立野洲養護学校
<p><公開授業領域></p> <p>①体づくりの運動遊び ②球技（ティーボール） ③球技（ホッケー）</p>	
<p><分科会研究主題></p> <p>子どもたちの意欲や主体性を引き出す授業づくり ～それぞれの発達段階で大切にしたいことに焦点を当てて～</p>	
<p><授業の見どころ></p> <p>それぞれの発達段階で大切にしたいことに焦点を当てた取り組みの中で、子どもたちがいきいきと主体的に活動する姿を見ていただければと思います。</p>	
<p><授業者の思い・意気込み></p> <p>①児童たちが設定場面に応じて、様々な動きや姿勢の変換をします。手本を見て繰り返し行うなかで、身体の動かし方を考えて取り組む姿をご覧ください。 ②中学部の3年間で心も体も大きく変化し、悩みも増えますが、そのような中でも身体を動かす楽しみや喜びを感じられるような授業を目指します。 ③前期は、様々な運動を通して生徒同士の心と心をつなぐ努力をしてきました。後期は、ホッケー等を通して生徒の心と心をつなぎ、スポーツを好きになり、できる自分を感じられる授業を目指します。</p>	
<p><指導助言者></p> <p>大阪体育大学 准教授 曾根 裕二</p>	

令和4年度 最優秀校（文部科学大臣賞）受賞校紹介

札幌市立幌南小学校（北海道）

<研究主題>

「学びを実感し、自己を形創る子ども」
—— I（アイ）を築く子ども ——

<研究の目的>

運動がもつ本質的な面白さを感じ、友達との見方・考え方の違いを互いに認め合いながら、自らの運動への関わり方を広げていく子どもの育成を目指す。

<研究内容と成果>

- クラスや学年の仲間との協働的な取組を通して、運動の楽しさを実感できるようになり、運動への意欲が高まった。
- 研究内容やカリキュラムを検証することで、教職員の指導力向上にもつながった。

盛岡市立北厨川小学校（岩手県）

<研究主題>

「知識・技能を高める体育授業の創造」
—— 教師や児童同士がかかわることを通して ——

<研究の目的>

仲間との関わり合いを通して、基礎・基本の定着を目指し、わかる・できる児童を育成するための指導の在り方を明らかにする。

<研究内容と成果>

- 体育授業の原則として、「運動量の確保」「適切な教材の選択」等教材研究や授業研究を重ね、指導過程の在り方について授業改善を図った。
- 運動の教具・教材づくりを進めることによって、指導の改善が図られ、運動技能そのものの高まりが見られた。

鹿嶋市立鉢形小学校（茨城県）

<研究主題>

「一人一人が主体的に運動に関わるための資質・能力の育成」
—— ICTの効果的な活用を通して ——

<研究の目的>

ICTの効果的な活用により、児童が主体的に運動に関わる資質・能力を育成する。

<研究内容と成果>

- 効果的なICT活用を試みる授業実践により、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等のいずれの資質・能力も向上を図ることができた。
- 組織的な研究への取組により、教員の体育指導力が高まり、授業の質が向上した。
- 体育環境を整えることで、主体的に活動できる児童が増加した。

越谷市立大間野小学校（埼玉県）

<研究主題>

「運動に対する必要感をもたせる体育授業と運動好きな児童の育成」
——3つのゴール（①運動好き ②体力目標達成 ③指導に自信のある教師）を目指して——

<研究の目的>

運動好きを増やすべく①運動に対する必要感、②授業以外の運動に対する必要感、③家庭との連携を通じた必要感という『必要感』を柱として3つのゴールを目指した。

<研究内容と成果>

- 「運動が好き」「体育が楽しい」と感じる児童が大幅に増加した。
- 児童の体力の大幅な向上が見られた。
- 教材教具の作成や展開の工夫について活発な話し合いが行われるようになった。

紀の川市立貴志川中学校（和歌山県）

<研究主題>

「自らが進んで運動に取り組み、課題を解決することができる体育学習」
——仲間と共に高め合う姿を目指して——

<研究の目的>

基礎的・基本的な知識や技能、合理的な実践方法の学習を通して、仲間とともに学び、互いを高め合い、主体的・対話的で深い学びが実践できる生徒の育成を目指した。

<研究内容と成果>

- 解決すべき課題を明確にすることによって、生徒が見通しを持って活動できるようになった。
- ICT機器を活用することで、視覚的に運動を理解することができ、意欲や技能向上につながった。さらに生徒同士が関わり合う姿も多く見られるようになった。

松山市立石井北小学校（愛媛県）

<研究主題>

「『ちがい』を認め合い、子供自らが『教材』『仲間』『自己』と豊かにつながる学習を通して、夢中になって学び続ける愛顔（えがい）いっぱいの子供に育てる」

<研究の目的>

体育学習を中核とした学びや経験を充実させ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

<研究内容と成果>

- 目的を明確にした仲間との関わりを充実させたことで、進んで話し合い、協働的に課題解決する力が向上した。
- 教師は、評価規準に照らして丁寧に子供の姿を見つめ直し、指導の工夫・改善につなげることができた。

令和4年度 体育授業優秀教員 受賞者紹介

中嶋 圭一郎（なかじま けいいちろう） 三郷市立早稲田小学校（埼玉県）教諭

<実績>

平成24年、29年、31年埼玉県小学校体育研究協議会代表発表者司会・助言者、
平成20年小学校体育実技指導者講習会講師、令和3年北関東体育学会口頭発表
令和3年度文部科学省優秀教員受賞

<体育授業における実践>

- 児童の学びの改善、教師の指導改善を促す学習過程の工夫、学習カードの開発
- 学びのゴール像の映像提示や、動きの可視化、自身の学びの姿のポートフォリオ化等、課題解決のためのICT機器の有効活用生体育」を目指した授業づくりを実践

外村 浩二（とのむら こうじ） 可児市立今渡北小学校（岐阜県）教諭

<実績>

令和4年度岐阜県小学校体育研究部会可茂地区大会授業者

<体育授業における実践>

- 「きめ細やかな子どもの掴みと出口（何を身に付ければ、何ができるようになればよいか）を明確にした学び」を基盤とした学習指導
- 今もっている力、身に付けている力の見取りと、瞬時の声かけ及び変容していく児童への対応と、児童による相互援助活動の促進
- つまずきのある児童のための、様々な道具や技の選択ができるような学習環境の整備

吉峯 真太郎（よしみね しんたろう） 奄美市立手花部小学校（鹿児島県）教諭

<実績>

令和2・3年度鹿児島県「たくましい“かごしまっ子”」育成推進校 令和3年度研究公開
令和3年度鹿児島県教育実践論文特選

<体育授業における実践>

- 異学年合同体育における効果的な指導過程や評価の在り方、互いに教え合い、学び合って成長できる体育科授業の研究実践
- 児童が見通しをもって運動に主体的に取り組むための、段階的な単元構成の設定
- 子供たちが苦手意識をもつことなく、喜んで運動しようとするスモールステップの学習の流れの工夫

令和4年度（2022年度）

全国学校体育実技指導者講習会の実施報告

—講習内容の概要—

幼稚園・こども園の部

●会場：千代田区千代田小学校
体育館

●受講者：四十九名

●日時：七月二十六日（水）

●会場：千代田区千代田小学校
体育館

●受講者：四十九名

●主題 「健康な心と体を育てる運動遊び」

●趣旨

幼児の体力が低下し、健康な心と体の育ちが危ないといわれており、さらに温暖化・コロナ禍で体を動かす機会が少なくなってきました。そこで現場で実践できる運動遊びの理論と実践の講習会を通して今後の運動遊びの充実と発展に期待いたします。

●内容

①「子どもが笑顔になる、幼児期に実践しておきたい楽しい運動遊び」

ライズチャレンジクラブ代表

坪田 潤一郎先生

調整力・平衡性・敏捷性・協応性・巧緻性を養い、鍛えることの重要性を具体的に講義とビデオ視聴、実技から指導いただきました。「自分の体を自分でイメージした通りに動かす」ことが大事であるという話から運動遊びの基本が分かりました。今では、子どもたちのヒー

ロー的存在の先生が、実は子ども頃、体育が苦手であったので、幼児期から運動を好きな子どもを育てたいという話は現場の実態に重なり、運動遊びを見直す視点を得ました。



②「健康な心と体を育てるく足育を通して」

江戸川区立船堀幼稚園副園長

東 美和先生他

平成二十七年本会の足育推進研究会であり、現在も引き続き力を入れて足育活動をしている園の実践内容を紹介し、実技を行いました。正しい靴の履き方や、足を使った運動遊びの内容から、足育の重要性が発信できました。裸足で足指を使った活動は意外に難しく、足指ジャンケンやタオル引きでは苦戦する参加者もいましたが、足指を思うように動かすことができることが大事であることが分かり、今後取り入れてみたいという声も聞かれ、足育の推進につながりました。また園で取り組んでいる「負けるな元氣」体操、ゲーム等、今後の保育実践の参考になりました。



③「ボール遊びの実技」
株式会社こども体育研究所
教務部次長

笠原 孝之先生他

本会協賛企業であるこども体育所では、日常から各幼児教育施設等で体育を通じて生きる力を育む活動をされており、今回は運動能力で特に低下している「投げる」動きを中心に実技指導を行いました。キャッチする・コントロールする・投げることの基礎から始まり、玉入れ、城倒しなどのゲームで盛り上がりました。

ボール運動（布玉）は運動能力としては柔軟性・瞬発力・筋力・平衡性・敏捷性・調整力の育ちにつながり、精神面でもや



る気・達成感・思いやり・集中力・注意力・判断力がつくことが分かりました。

④幼児期運動指針の制定を振り返って

日本学校体育研究会参与

福井 直美先生

平成二十四年に制定された幼児期運動指針の内容を中心に、幼児期の運動遊びの重要性について、講義とビデオで紹介してくださいました。制定が十年前なので若い先生方には、なぜ制定されたか知らない人もおり、運動遊びの意義や、指導内容を振り返るよい機会となりました。

⑤幼児期の運動遊びく心が動けば体も動く

東京女子体育大学専任講師

堀内 亮輔先生

大学で講義をされる傍らプレイヤーとして現場で活躍されている先生の実践は明日からの保育にすぐにつながる内容で



あり、子どもへの言葉かけなど、動かし方等の指導の参考になりました。テーマである心が動けば体も動くとは、子どもが「やってみよう」、「なってみよう」と心を動かすための環境を整え、どのような遊びを届け、どのように「関わり」をしていくのが重要であることが理解できました。



小学校の部

第一日 七月二十六日(水)

●会場：千代田区立昌平小学校 体育館(四階体育館)

●受講者：九十一名

①ゲーム

講師 順天堂大学准教授

荻原朋子先生

シエアリングの後、準備運動を行いました。

その後、発達段階に応じたネット型ゲームを行いました。

低学年：風船リレー。ボンバー

ゲーム、フロアボール

(陣形の学習)

中学年：ハンドテニス、アタック

クラブレル(プレレル・バ

ウンド・キャッチ・アタック)

高学年：セカンドキャッチ(ワ

ンバウンドレシーブ・

キャッチ・下から投げ

上げ・アタック)フアー

ストキャッチバレー



☆気付かせるのか・伝えるのか「教えないと出てこない。ホームポジション(三角形の頂点セッター)連携プレーの有効性については、知らないから教えてあげてもいいのではないかと気付かせるためには、知ってないといけない。」

☆小学校ネット型の学習の流れ

が、実技内容のもつそのゲーム

の面白さを実感しながら学びま

した。アタックプレレルが、ソフ

トバレーへつながつていく、そ

のつなぎ目を体感できました。

セッターのポジションがどうし

てネット際になるかを、子ども

たちは理解して行えるようにな

ることを学べました。

②表現運動

講師 帝京科学大学助教

望月崇博先生 助手七名

座学「表現領域における課題と問題点」目標「自分の体への意識仕方」「ひと流れの動きとは、動きの流れを作るための意識の話です」

実技「体ほぐしの運動・紙を使

った運動・ゴムヒモを二本

使った運動・透明ゴム紐を使っ

た運動」ポイント(多様性を共

有すること、新聞紙とゴム紐と

の感覚の違いを意識する)

座学二「作品を創作することに

ついて」

作品の創作「振り付け・動きづ

くりスパイスをきかせる(・繰

り返し・断絶・分断・リズムの

変化)」構成：授業と同じ(は

じめ・なか・おわり)」「激し

く終わる印象で、さみしい余韻

を残す」

「演出：雰囲気作り(要素・音

楽の強弱(その他操作)

発表と鑑賞(印象に残っている

ものを明確化、その理由を考え

る)

☆五十分をかけてグループごと

の表現を完成させました。受講

者の達成感が子どもたちへの指



導の意欲となると感じる事ができました。講師の先生の各グループの的確な助言も目を見張るものがありました。

第二日 七月二十七日(水)

●会場：千代田区立昌平小学校 体育館・プール

●受講者：九十一名

③水泳 講師 東海大学 教授

大越正太先生

○水遊び↓沈む↓浮く↓進む

(ジャンケン股くぐり・ダルマ

浮き・ドリブル・変身遊び・壁

伏し浮き・伏し浮き・ラッコさ

んキック・エレメンタリーパッ

クストローク・サバイバルごっ

こ)

○浮力を利用し抵抗を避ける

(け伸び↓ロケット遊び↓進ん

だ段階のけ伸び)

○推進力を得る(姿勢とバタ足

↓キャッチアップ↓板横向き呼

吸↓キャッチアップ呼吸↓

キャッチアップクロール)

○平泳ぎの足の蹴り

☆造波抵抗・渦巻き抵抗・粘性

抵抗・形状抵抗を活用して浮

き・進む。



☆怖くて手を握って来る児童には、持ち方を上からにする。

☆浮くためには頭の先を上げな

い。

☆呼吸の練習：ビートバンに片

手だけ乗せる。補助は背側から

行う。慣性系から作っていく。

進行方向に向かって肩を上げ、

腕に耳をつける。

☆ストロークの練習。手は見な

いこと。大きく回して戻す。肩

が持ち上がるように。

☆怖さのある子どもへの補助の

仕方など工夫を学びました。上

から腕を補助するのではなく、

下から『ちよつと深め』に手を

支える。水泳は回り道をして、

ゆつくりと登る。

④陸上運動 講師 国士館大学

講師 陳 洋明 先生 助手二名

○音楽を活用した準備運動(リ

ズムジャンプ↓動的ストレッチ

↓体反故誌の運動)

○短距離走のポイント(正しい

姿勢↓地面をけて前に進もう

↓腕を大きく振って)



○アクセント高跳び(ノモグラムの活用↓リズムに乗って↓三

歩助走・五歩助走・七歩助走）
抜き足を横に大きく開いて

○投の運動（できる限り遠くに
投げる。リズム投げ↓ステップ
投げ↓紙鉄砲↓ロケットボール
投げ）

☆体を横に向けて腕を力いっぱ
い振る↓『イチ』『ニッ』『サー
ン』

☆実技で体験したことを実際の
授業ではどの場面でも、どのよう
な場の設定で行い、子どもたち
にどのように伝え、子どもたち
に気づかせ、子ども自身の力と
させていくか映像を通して理解
させていただきました。

☆親しみのある、リズムカルな
音楽に乗って、身に付けさせた
動きを繰り返し踊り、いつの
間にか自分の動きになっていま
した。

☆講習中、受講者が率先して走
り高跳びのスタンドやバーを片
付けるようになっていました。



中・義務教育 中等教育・高等学校・ 特別支援学校の部

●日時：八月四日（金）

●会場：品川区立日野学園
体育館・格技室

●受講者：五十名

●内容及び講師

①球技「サッカー」

日本体育大学教授

岡出 美則先生

②武道「柔道」

大妻女子大学教職総合支援セ
ンター 特任教授

熊野 真司先生

講習会は、新型コロナウイルス
感染症の影響により三年ぶり
の実施となりました。当日は、
マスクや消毒の徹底等の健康・
安全管理を行ながらも、講師の
熱意溢れる指導と受講者の真剣
に取り組む態度で、活発かつ有
効に行われました。受講した教
員のみなさんが実技研修を通し
て教科の専門性や教員としての
資質・能力を高め、満足してい
る様子を見ることができました。

【午前の部】

球技「サッカー」

はじめに、理論編として、球
「サッカー」について、ゲーム
を楽しむこと、子供の発達の段
階を踏まえて身に付ける力、指
導者として押さえておきたい指
導のポイント、発問や称賛によ
る意欲の喚起や思考を深める指
導の在り方などについて講義が
ありました。

受講者のみなさんは、熱心に
学び、深く考える様子が多くの
場面で見られました。今までの

自己の実践を振り返るとともに、
新たな発見をしていたように見
えました。

その後、受講者のみなさんが
八つのチームに分かれ、実技研
修を行いました。課題を明確に
した四つのゲームを紹介いただ
き、そのうちの二つのゲームを
実際に体験しました。



課題「ゲーム「逃げる人を
タッチする」では、タッチする
二人の作戦、逃げる相手の作戦
の攻防で盛り上がりました。

課題三ゲーム「ボール保持者の
適切な判断とボールを持たない
ときの動き」では、受講者のみ
なさんのボール操作などの素敵
な動きが見えました。

各チームには、キャプテンや
副キャプテン、用具係、励まし
係など、全員が役割をもちチー
ムに貢献することを大切にしま
した。このことで、チームのア
イデンティティーが高まること
、人間関係づくりに生かせること

を実感しました。

受講したみなさんは、子供た
ちにサッカーの楽しさを味わわ
せる方向が掴めた、仲間と共に
学びを深める学習が分かってき
た、早く学校で実践したいと感
想を語ってくれました。

【午後の部】 武道「柔道」

まず、理論編として、武道「柔
道」の授業づくりについて講義
がありました。子供にとって安
心で楽しい柔道の在り方、デー
タに基づいた柔道の授業の課
題、指導と評価の一体化の大切
さ等を学びました。

その後の実技講習では、はじ
めに日本の伝統文化に触れる視
点から、礼法や相手を敬う態度
について、体験を通して学びま
した。「先生に礼」、「お互いに
礼」の挨拶で始まる意味を知り、
受講者のみなさんは身が引き締
まる思いだったと後で話してく
れました。また、相手との関係
を知るための遊びの要素を取り
入れた活動に取り組み、笑顔が
輝いていました。

受け身では、「パン」と畳を
はじく音が道場中に鳴り響き、
投げ習では、投げたときに両手
でしっかりと袖をもつ「思いやり」
がみえました。固め技では、自
らが考えた押さえ方やのがれ方
を工夫し、実践と振り返りで学
びを深めました。

重要な視点として、相手を尊



重する態度とスモールステップ
による段階的な指導が子供の安
心で楽しい柔道を実現させてい
くことを学びました。

実技指導者講習会を終え、受
講した先生方にお話を伺いまし
たので、紹介いたします。

「今まで何気なく指導してき
た内容について、その意味を深
く理解するとともに、様々なこ
とを学び新しい発見がありまし
た。また、多くの先生方と共に
学べたこと、交流できたことを
大変うれしく思いました。自分
がバージョンアップできたこと
を実感しています。学校で、今
後の指導に生かしていきたいと
考えています。ありがとうございました。」



令和3年度 各都道府県教育委員会 長期研修生等合同発表大会

【主催】(公財)日本学校体育研究連合会

【目的】体育、保健体育の指導者の資質向上を図るとともに、各教育機関の教員研修事業の充実に資する。

寺川 耕平 (越谷市立越ヶ谷小学校)

【演題】運動好きを育て、できる・わかる楽しさや喜びを味わわせる体育授業の研究

【概要】

高学年のボール運動領域において、子供たちの関わり合いを意図的に豊かにする仲間づくりと「できる」と「わかる」をつなぐ指導を行うため、学習モデルに基づいた学習過程や学習活動、教材・教具の工夫等を講じ、主体的に学習する児童の育成を目指した。その結果、児童の自己技能発揮や社会技能、情意技能及びゲームパフォーマンスの向上が見られ、一定の有効性を確かめられた。

石山 絵理 (深谷市立川本中学校)

【演題】主体的・対話的で深い学びをつくる体育授業の研究
—自分・他者・内容との対話を活かしたバスケットボールの授業づくり—

【概要】

自分・他者・内容との対話を活かした授業づくりを通して子供たちの学びを深める学習活動を行うことにより、運動好きな生徒を育てることを目指した。対話を活かした授業を教師が創出することで、子供たちが動き方の理解を得られ、話合い・共感する中でお互いの動きが確認されていった。その結果、対話を活かした授業は、運動好きと運動嫌いの二極化を解消することに有効であったことが確かめられた。

村上 一博 (新座市立第六中学校)

【演題】保健体育における「思考力、判断力、表現力等」の育成
—課題発見・解決能力の育成を目指して—

【概要】

ICTを活用することで協働的な学習を充実させ、「思考力、判断力、表現力等」を向上することを目指した。主な手立ては、学習カードと学習資料集を電子化することで、映像により技能の変容が分かることや、課題を発見したり練習を選択したりしやすくすること等を目的とした。その結果、協働的な学習が充実し、「思考力、判断力、表現力等」の向上に一定の成果が見られた。

高梨 崇洋 (いすみ市立夷隅小学校)

【演題】児童の運動有能感を高めるマット運動の学習指導の検討
—協同学習モデル「PACER」を適用した授業実践を通して—

【概要】

児童の運動有能感を高めるため、第4学年を対象に児童が共に課題に取り組むことによって、自分の学びとお互いの学びを最大限に高めようとする小グループを活用した指導法である協同学習モデル「PACER」を適用した授業実践を行った。その結果、児童同士の肯定的な関わり合いが促進され、児童の運動有能感を高めることができた。さらに、運動領域、認知領域においても学習成果を得ることができた。

山崎 薫（南足柄市立向田小学校）

【演題】 「動きの感じ」を意識し、技能向上が実感できるマット運動の授業
—インタビューによる「運動の言語化」と1人1台端末を用いた「運動の視覚化」を通して—

【概要】

マット運動の楽しさや喜びを味わうためには、技能向上を実感できることが重要である。本研究では、児童が、主観的な感覚である「動きの感じ」を意識し、技能向上を実感できるための手立ての有効性を検証した。児童は、自分の運動を言葉で表現したり、1人1台端末を用いて技の見本や自分の試技を映像で視聴したりした結果、「動きの感じ」を意識し、「前よりもできるようになった」と技能向上を実感することができた。

井澤 祐貴（横須賀市立常葉中学校）

【演題】 チームワークが高まり、誰もが楽しむことができるバレーボール授業
—共生の視点を重視し、仲間との関わり方について考える学習を通して—

【概要】

バレーボールの楽しさは、集団での活動を通して、技能やチームワークを高めていくことにあると考えられる。本研究では、チームワークの高まりに着目し、平成29年告示の学習指導要領で新たに示された「共生」の視点を重視した発問や学習活動など、仲間との関わり方について考える学習を取り入れた。その結果、チームワークが高まり、誰もがバレーボールを楽しむことができた。

外赤 広太（神奈川県立釜利谷高等学校）

【演題】 加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つ保健学習
—「心情に働きかける教材」を取り入れた学習を通して—

【概要】

加齢に伴う健康課題について考える「加齢と健康」の学習内容は、高校生に「自分事」として捉えさせることが難しい内容である。本研究では、加齢に伴う健康課題について「自分事」としての認識を持たせるために、「心情に働きかける教材」を活用した。検証の結果、「自分事」としての認識を持たせることに本教材が有効であることがわかった。



井口 清隆（久留米市立上津小学校）

【演題】 仲間と関わり合いながら動きを高める第6学年体育科学習指導
—思考と試行を位置付けた学習活動の工夫を通して—

【概要】

本研究では、自分や仲間と身体操作の課題を見付け、適切な練習の場を選択したり理想の身体操作を考えたりしながら、理想の身体操作に近づける子供を目指した。そこで、思考と試行を活発にする場の工夫や思考や試行を可視化するICTや学習カードの活用を行った。その結果、子供は、「何ができるようになるか」「どうやったらできるようになるか」を自分や仲間と考えたり話し合ったりし、試しにやってみることで、動きを高めることができた。

鈴木 貴大（大野城市立大和中学校）

【演題】 自他の「伸び」を実感できる生徒を育てる保健体育科学習指導
—段階のねらいに応じた対話活動を通して—

【概要】

本研究では、「伸び」を運動性、探究性、協働性がバランスよく、かつ、相互に関連しながら高まることと捉え、これらが高まったことに気づき、「自他の『伸び』を実感できる」生徒を目指した。そこで、段階のねらいに応じて対話活動を仕組み、それを支える手立てとして、対話活動の必然性を生み出す問いの設定と対話活動を活性化させる具体的な支援を位置付けた。その結果、生徒は運動が「できる」、「できない」に関係なく自他の「伸び」を実感できた。

小松 陽子（福岡県立福岡魁誠高等学校）

【演題】 運動への関わり方を広げることができる生徒を育てる保健体育科学習指導
—目的に応じたupdate sheetの活用を通して—

【概要】

本研究では、思考的側面、情意的側面から学び方や接し方を膨らませ、運動への関わり方を広げることができる生徒の育成を目指した。そこで、個に応じており、主体的な学びを引き出すことができる目的に応じたupdate sheetを活用し、目標設定やPDCAサイクル、自己評価を行えるようにした。その結果、生徒たちは、運動を行うことだけでなく、学習を調整したり、振り返ったり、コミュニケーションを積極的にとったり、仲間を尊重したりするなど運動への関わり方を広げることができた。



令和四年度 ジャスぺ 足育 (あしいく) の推進について

足が変われば子どもが変わる
子どもが変われば『未来』が変わる

新型コロナウイルスの感染状況はなかなか改善されず、コロナ禍での活動も三年目を迎えた。終息への道筋は未だ見えない状況ではあるが、JASPE 足育推進委員会では、with コロナの視点で、今できる活動を模索しながら、新たな足育様式の創造を目指し、活動に取り組んでいる。

三 分科会による活動

オンラインを基盤に活動

- ① 体系化部会 (九回)
- ② 一般化部会 (六回)
- ③ 情報発信部会 (九回)
- ④ 第四集編集委員会 (二回)

《令和四年度の取組》

一 足育研究推進園・推進校

令和二～四年度足育研究推進園 目黒区立げっこうはら子ども園
令和二～四年度足育研究推進校 杉並区立済美小学校

《令和二年度の歩み》

一 足育推進委員会 (六回)

※リモートと対面でのハイブリッド形式で実施
① JASPE 足育研修会 滋賀大会について
② 第四集に向けて
③ JASPE 足育マイスター制度について
④ 各部会からの報告・協議

二 出前授業○・研修会◇

学校保健委員会☆
大田区立仲六郷小学校○☆
渋谷区立富ヶ谷小学校
愛知県岡崎市立三島小学校○
品川区立清水台小学校☆
文京区立礪川小学校☆
千葉市立西中野小学校○☆
中野区立西中野小学校○☆
江戸川区立東小岩小学校○☆

二 出前授業○・研修会◇

学校保健委員会☆
群馬県みどり市立あずま小中学校○☆
練馬区立南町小学校○
板橋区立志村小学校○
世田谷区立八幡小学校☆
東京都養護教諭研究会◇

三 研究会での発表など

JASPE 足育研修会山形大会
第三六回日本靴医学会学術集会
ブラッシュアップ足育研修会

《JASPE 足育組織再編》

一 組織再編の目的

①現在の足育事業に応じた迅速

な対応ができる組織力の向上

②委員会の円滑な運営、連絡や情報共有の徹底

二 活動内容に応じた再編

① 事業実践部
新規・継続事業への対応
② 編集部
足育指導資料第四集の企画・作成

③ 養護部
養護教諭への情報発信

④ 幼児教育部
幼児教育における足育の啓発

⑤ 中学部
中学校での足育推進

⑥ デジタル部
デジタルレポート全般

三 足育推進委員会

【委員長】
内木 勉・練馬区立光が丘春の風小学校校長

【副委員長】
難波誠二・杉並区立済美小学校校長

眞砂野裕・昭島市立光華小学校校長

吉川則久・青梅立第五小学校主幹教諭

武田千恵子・足立区立足立小学校再任用主任教諭

濱田 哲・台東区立石浜小学校

校主幹教諭

平 武史・台東区立平成小学校副校長

寺内周平・台東区立桜橋中学校副校長

富岡将人・足立区立西新井第二小学校副校長

前村章太・台東区立根岸小学校主幹教諭

市川洋一・東村山市立八坂小学校主幹教諭

酒井慎一・昭島市立光華小学校主幹教諭

小井土円香・葛飾区立渋江小学校主幹教諭

山本志津子・墨田区立業平小学校主幹養護教諭

小島大樹・調布市立八雲台小学校指導教諭

岩田純一・墨田区立誠之小学校指導教諭

千葉富美江・小平市立小平第八小学校指導教諭

西島秀一・世田谷区立松原小学校主任教諭

古屋知子・八王子市立第五小学校主任教諭

梅林伸幸・杉並区立済美教育センター指導主事

倉前広子・江戸川区立船堀幼稚園主任教諭

丸田樹理・板橋区立高島第六小学校養護教諭

村瀬智美・世田谷区立千歳台小学校養護教諭

伊藤瑞希・足立区立青井小学校養護教諭

小嶋博子・調布市立染地小学校養護教諭

福井直美・明治学院大学心理学部教育発達学科特命教授

木村恭子・千代田区立麹町幼稚園園長

秋元平良・特定非営利活動法人 COLLECTIVE

敷田浩一郎・徳島県阿南市立阿南第一中学校教諭

福田一敏・徳島県美馬市立穴吹中学校教諭

佐瀧昭博・徳島県板野町立板野中学校教諭

神戸翔太・徳島県海陽町立啗中学校教諭

早川家正・日本教育シューズ協議会理事長

武原充宜・日本教育シューズ協議会理事

早川侍揮・日本教育シューズ協議会理事

【JASPE 足育事業特別顧問】

吉村真由美・早稲田大学人間科学学術院招聘研究員

JASPE足育指導資料 第四集 作成の経過報告

同指導資料においては、第三集の発行（平成三十年十一月）から約五年が経過している。この間、第七版まで発行を重ね、総発行部数は二六五〇〇部、配布数二五〇〇〇部となった。（令和四年八月末現在）

この第三集において、特に厚みを帯びた内容は次の三点である。

○新学習指導要領に則った学校教育における足育の充実

例：足育の「見方・考え方」の提示

○靴教育の充実

例：機能性を考えた靴選び

○JASPE育調査研究委員会での実証的検証

例：研究推進校での調査研究

全国に広がりつつあった出前授業も含め、ここまで順調にその実績を積み重ねてきたJASPE足育であったが、この三年間はコロナ禍での活動制限を余儀なくされてきた。対面での話し合いができず、各地での出前授業や講演会、調査研究委員会

も中止となった。

その中でも、オンラインを駆使しながら、新規内容に着手し、既存の内容をブラッシュアップしている現状である。

その内容をまとめた第四集の主な改定点は次の五点である。

① 資料内容のデジタル化

年々拡充する研究内容を紙媒体の指導資料にまとめていくには、膨大なページ数が必要となる。また、全国の学校でGIGAスクール構想が進行中であること、私たちの生活においてもSNSによる情報が日常化していること等から、普及したい資料内容をデジタル化することとした。今後さらに各内容が発展した際にも、紙面内容を変更することなくコンテンツが更新できることも、デジタル化の利点と考える。

② リーフレット化

一人でも多くの教員に私たちの情報を届けるために、多忙な業務の中でも手に取りやすく、読みやすい（読みたくなる）資料提示を工夫する必要がある。先述のデジタル化により、第四

集はページ数を抑えたリーフレットとする。

③ 小学生の一日をイラスト化

第四集も小学校教員を配布対象の中心と考え、リーフレットの内容は、小学校生活をイメージしたイラストで構成した。

④ クリアファイルに収納

登校から帰宅までの学校生活や、保健室での養護教諭のつぶやきなどをイラスト化し、各場面ごとに関連するデジタル情報をQRコードで案内する。いわば、足育への入門を誘う紙面と なっている。また、終盤には、JASPE足育をより詳しく知りたいと考えた教員に「足育マスタースター」への案内もQRコードで掲載する。

⑤ 拡充する内容

第四集の配布時のみならず、今後の各関連資料を収納するクリアファイルを作成する。

デザインにはJES製の靴をイラスト化し、裏面には、新たに作成した足の簡易計測シートを印刷した。（下図参照）クリアファイルは多くの教員が日々の教育活動で使用しており、このクリアファイルそのものが、

JASPE足育の日常化や興味関心の喚起に一役担うことを意識した。

⑤ 拡充する内容

第四集で拡充する内容を三ポイントで紹介する。（下段へ）

○靴教育

JASPE足育事業特別顧問である吉村眞由美先生のご尽力

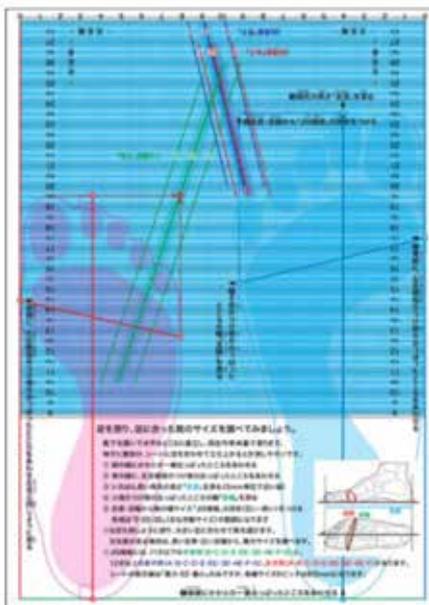
により拡充した靴教育の内容を記載する。

○足育マスタースター

積年の課題であった「足育マスタースター」の内容や承認制度についての案内を記載する。

○幼児教育向け「足育絵本」

未就学児への足育普及に向けて、「絵本」という媒体で資料を作成、記載する。



簡易計測シート（裏面）



クリアファイル（表面）

本校は令和二年度より、公益財団法人日本学校体育研究連合会の指定を受け、足からの健康教育に取り組んでいます。初年度はコロナの対応があり、推進校としての取組は九月以降の開始となったため、実質二年半推進校としての取り組を進めています。この間の本校の取組を紹介いたします。

【推進校としての取組】

①教員への足育の周知

教員の足育に関する理解を深めるために、令和二年八月に日本教育シューズ協議会理事長早川家正氏と足育推進委員長現練馬区立光が丘春の風小学校長 内木 勉先生を招き、教員対象の足育に関する研修会を実施しました。研究会では、児童の足の実態やその課題から、足育の必要性について学ぶとともに、教員自身の足を計測することを通して、足のサイズに合った靴を正しく履くことの大切さを実感することができました。また、今までの推進校の取組を知るにより、各教員が今後の取組の見通しをもつことができました。新年度の教員異動へ

の対応も大切です。令和三年度の開始にあたり、校内分掌の体育部の組織に足育担当を組み入れ、校内体制で推進できるようにしました。また新しく赴任した教員へは、足育推進委員会作成の指導資料を配布し、足育の内容を周知するとともに、日常的に正しい靴の履き方指導ができるように全教員へ児童と同じ上履きを配布し使用するようにしています。

②保護者への足育の啓発

足育を推進していくためには、家庭の協力を得ることが大切です。令和二年九月には、前出の早川家正氏による保護者対象の講演会を実施しました。コロナ禍のため、PTA役員のみを対象として実施し、発育期の足育の大切さへの理解を啓発することができました。また、令和三年一月から保護者へ向けて「正しい足育だより」を定期的に発行しています。子供の足と靴の実態や課題、全児童への上履き貸与の周知、各学年の足育授業の内容等を伝えることで、保護者の足の健康への関心を高めています。令和四年度は一月に足育授業を保護者へ向けて公開し、その後、保護者対象に早稲田大学招聘研究員の吉村貞由美先生による足育講演会を実施する予定です。実際の靴の購入に

は保護者の考えが大きくかわるため、正しいサイズの靴を履くことの大切さを保護者に理解してもらうことも大変重要です。

③全児童への上履き貸与と正しい靴の履き方の指導

全児童を対象に簡易足計測器を使って足長及び足幅を計測し、自分の足に合った上履きを令和三年四月から全児童へ貸与しています。特に新一年生には、入学前の三月に保護者とともに来校いただき、日本教育シューズ協議会の協力のもと、足を計測し正しいサイズの上履きを配布しています。

また、年度当初の全校朝会にて、正しい靴の履き方及びその必要性を理解させ、継続的に各学級にて指導しています。靴の履き方の合言葉である「ベリベ



日々の学校生活の中で、正しい履き方や脱ぎ方について教員が継続して声をかけ、子供の実践力を育てていくことが大切だと考えます。

④足育月間の設定と取組

本校では、足育を重点的に推進する期間として各学期に一回ずつ足育月間を設定しています。以下に足育月間の取組を紹介いたします。

《全校朝会での「ギョツと足育」の活用》

足育月間内の全校朝会では、足育指導資料の「ギョツと足育」を活用した校長講話を実施しています。コロナ感染拡大により、オンライン朝会にて実施しているため、足育推進委員会作成のプレゼン資料を効果的に使用することができています。「足の骨」や「土踏まずの働き」「足を清潔に保つ大切さ」などクイズを交えながら行うことで、児童の足への関心を高めることができています。また、正しい靴の履き方もその都度指導し、児童の足育への意識の向上を定期的に図る機会にしています。

《足指体操の継続的な実施》

土ふまずの成長を促す「足指体操」を児童に継続的に取り組ませるため、全校朝会での実演と共に一人一人に足指体操カー



ドを配布し、足育月間の期間中、各家庭で自主的に取り組ませています。入浴中や就寝前などの裸足になるタイミングに行うことを推奨しているため保護者も一緒に行っている家庭も多く見られます。カードは足育月間の中で定期的に回収し、教員が実施状況を確認し指導に生かしています。また、足育授業に合わせて取り組ませることで、足指体操の必要性を理解させ、実践意欲の向上を図っています。

《はだしで遊ぼう月間》の設定

本校の特色である全面芝生校庭を活用し毎年「はだしで遊ぼう月間」を六月に設定しています。休み時間に裸足で遊ぶことで、児童は芝生の感触を楽しみながら、いつも以上に活発に走り回る姿が見られます。裸足で遊ぶことは、足指を十分に動か

すことや足裏への刺激を与えることにつながり、歩行やバランスに欠かせない土ふまずの形成に役立つと考えます。また、芝生校庭に出る際には、所定の場所を外履きを脱ぐことになっていないため、靴をきれいに揃えて脱ぐことも指導しています。



《各学年の足育授業の実施》

足育月間には、特別活動の学級活動(2)日常生活や学習への適応及び健康安全「イ基本的な生活習慣の形成」「カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成」に位置付け、年間一時間の時数で、足育指導資料を活用した足育授業を各学年で実施して

います。足の健康について理解させ、自らの健康づくりを実践する力を身に付けさせるために、一・二年は「正しい靴の履き方や脱ぎ方」三・四年は「土ふまずの大切さ」五・六年は「自分の足に合った靴の選び方」を学びます。本校では、推進校初年度に一学年下の授業内容と当該学年の授業内容を実施し、足育授業の内容を系統的に学べるようにしました。また、全ての学級が同じ期間に授業を実施することで、各担任が互いの授業を見合い、情報を共有できるようにしました。以下は授業後の児童の感想です。

「くつを正しくはくりゆうやくつのやくわりがわかった。外に出るときには、ベルトをしつかりしめてあそぼうと思った。」(二年男子)

「土ふまずのアーチがとても大切な役割をしていることが分かりました。足指体操を続けて、じょうぶな土ふまずをつくりたいです。」(四年女子)

「普段はいている靴が変形していることが分かった。足のトラブルが起きないように、今度からは時間がなくても正しくはくことを心がけたい。」(六年男子)

児童からは、今後の実践につながる感想が多く見られました。足育授業で、現状を把握し解決のための知識を得ることが、こ

れからの実践意欲の喚起につながっていることが分かります。また、令和四年の一月に二年生が実践した「足育授業」は杉並区広報番組「すぎなみスタイル」の取材を受け、その後、区内のケーブルテレビで放映されました。地域の方から学校の取組への問い合わせもあり、足育の大切さを広く周知することができました。



計って提供した上履きを「ちょうどよい」と回答した児童は八五%で提供前の上履きより十九%上回りました。ただし、計測し提供したサイズの上履きを「きつい」と回答した児童も十%おり、外履きを大きいサイズで履いているための違和感だと考えられます。外履きについては、様々な種類の靴を履いている実態があり、運動や学校生活に適していないものも見られるため、今後靴の購入者である保護者への足育理解も進めていく必要があります。

上履き提供から一年経った令和四年七月に上履きのモデルチェンジとともに全校児童へ二度目の上履き提供を行いました。その際、足幅の狭い型の上履きを希望する児童が一回目の提供時より増えていました。ゆるいサイズの上履きよりもぴつたりサイズの上履きの履き心地を好む児童が増えているようです。自分に合ったサイズの靴を履く感覚が育ってきていることが分かります。正しいサイズの上履きを履き続け「運動がしやすくなった」など実感を伴わせることで、自ら靴に関心をもち正しい履き方を実践する態度を育成していきます。

【子供の変容と課題】

足育調査研究委員会作成の「足についてのアンケート」を実施しました。

質問項目「上履きの履き心地」についての回答では、サイズを

本園は、令和二年度からJASPE足育推進園の指定を受け、研究を進めて三年目となる。研究主題を「心も体もたくましい幼児を育てる」幼児の『やってみよう』を引き出すために『と設定し、「貸与靴を正しく履くこと」と「運動遊び」に着目し、幼児の物事に取り組み意欲の向上を目指している。

今年度は、研究をさらに深めるとともに、これまでの実践実践をまとめ、十二月十二日に実践報告会を開催予定である。

これまでの取組と幼児の実態

一 貸与靴について

幼児は、「貸与靴は足博士にもらった特別な靴である」という想像の世界を楽しんで履いている。正しい靴の履き方については、①「トントントン」、入っていますか（靴を履いて、かかとをトントントン）②「ドアを閉めて」（靴のタンをしつかり入れる）③「鍵をかけて、ギューッ、ピタ」（両手でマジックテープを



クテープを

引っぱり、留める）、という一連の流れを教師が指導するだけでなく、年長児が年下の幼児に教えたり、確認したりする「足当番」の活動を取り入れることで、一人ひとりの意識が高まり、慣れてきている。また、「足博士」という想像上の人物の存在を生かした援助も有効である。

しかし、かかとで貸与靴を足になじませることへの意識の希薄さだけでなく、体の動かし方のぎこちなさやバランスが保てないことよって、立って片足ずつかかとをトントントン（ヒールタッチ）することができなかり、手指の力が弱くマジックテープを十分に引っ張ることができなかつたりする実態が分かった。

二 運動遊びについて

研究推進園の先行研究を参考に、「二日一回、裸足で遊ぶ時間の設定」「足遊び用タオルの活用」「バランス感覚を養う動きの工夫」を積み重ねることに

より、幼児の運動能力の向上が見られるようになった。また、講師の日本体育大学 福井直美先生か



らは、幼児の遊びの様子や園の環境についてご指導をいただきたい。狭く限られた園庭環境ではあるが、その環境を生かし、慣れ親しんだ園庭で身をおかずなどして遊ぶ活動の工夫と、同敷地内の月光原小学校の広くて平らな体育館や人工芝の校庭で伸び伸びと体を動かして遊ぶ工夫などのご指導を元に、本園の環境を生かして運動遊びを楽しめる援助を行ってきた。そのことにより、幼児の「体を動かして遊びたい」という欲求の高まりが、年長児には特に顕著に表れ、主体的に体を動かす遊びや動きを遊びの中に取り入れる姿が見られるようになった。

その一方で、体を動かして遊ぶ楽しさを十分に感じられず、運動遊びに前向きに取り組もうとしなかつたり、早々に諦めて傍観したりする幼児もいる。その要因は、幼児にとって活動の見通しや楽しさが不明確なことや、活動内容や教師の援助が幼児の実態に合っていないことにあるのではないかと捉え、さらなる指導の改善を図る必要がある。

今年度の研究の視点

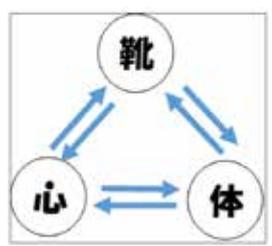
○運動遊び等の前に、幼児自身が気付いて主体的に声を掛け合って靴を履き直したり、自ら自然と靴を正しく履き直したり

する幼児の姿から、靴を正しく履くことは、幼児の「やってみよう」（次の活動への期待感や意欲、前向きな気持ちの切替え）につながる行動であると言える。○正しい靴の履き方を定着させるためには、毎回の丁寧な指導が大切であり、定期的に確認し、幼児の意識化を図る必要がある。そのため、幼児の実態に応じた指導方法の工夫が重要であり、折に触れ、「足博士」の存在を活用した指導が有効である。また、丁寧に指導を行うためには、教師が時間の見通しをもつことが大切である。



○年少児や年中児には体や手指の使い方など、基本的な体の技能に関わる指導や正しく靴を履けている感覚を体感させることが必要である。また、年長児には、他者を意識したり、友達との関わりを生かしたりする援助が有効になる。○本研究における教師の援助を

探る上で「靴」「心」「体」の三点を視点として設定すると分かり



やすく、それぞれに着目することにより、それら三点が相互に関連し合っていることを実感した。また、幼児の実態を踏まえると、「年少児は靴」「年中児は靴・心」「年長児は靴・心・体」と学年に応じて、重点的に着目する視点を増やして援助を考えると分かりやすいのではないかと考える。

○幼児の「やってみよう」を引き出す上で、幼児期の特性を生かし、想像の世界（ごっこ遊びや何かのつもりになって遊ぶことなど）を楽しませることが有効である。また、幼児にとつて分かりやすい見通しや目標があることも必要である。

○幼児期は家庭との連携が必須であり、保護者への積極的な啓発を行い、協力を得ることが必要である。

今年度の取組

一 「靴」「心」「体」を視点とした保育実践及び考察

幼児の「やってみよう」を引き出すための援助を考えていく上で、「靴」「心」「体」の三点に着目する。このことにより、丁寧に幼児の実態を捉えたり、具体的なねらいや援助を考察したりする。また、三点に分けて考えることで、相互の関連性をより実感することができ、幼児教育における「遊びを通じた総

合的な指導」につながると考えられている。

【取組①】「靴」「心」「体」の三点を週案の項目に設定

【取組②】「靴」「心」「体」の三点を考察の視点とした事例研究

【取組③】正しい靴の履き方、脱ぎ方の定着を図る援助及び環境の改善

二 想像の世界を大切にした援助



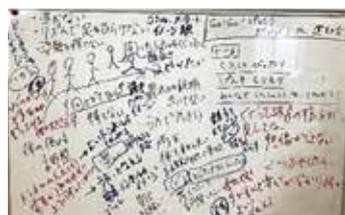
運動遊びの活動内容や援助を考へる際には、幼児が「やってみよう」と思えるような遊びとして、幼児期の特性を生かし、想像の世界を大切にし、ごっこ遊びや何かのつもりになつて遊ぶことの楽しさを取り入れる。また、幼児に分かりやすい見通しや目標を示すことを大切にし、一人ひとりが自分なりに楽しんで物事に取り組む中で、少し難しいことに挑戦したり、見通しをもって取り組むことによる充実感や達成感を十分に味わつたりすることを旨とする。

【取組①】想像の世界を大切にしたい運動遊びの実践

つもりになつて遊ぶことを視点とした事例研究【取組③】事例研究を元に活動内容や援助を改善

三 環境を生かした運動遊びの工夫

慣れ親しんだ園庭で、狭い環境を生かして経験できる遊びや身に付く動きを意識した運動遊びを工夫する。その際、遊具も活用し、幼児が主体的に運動遊びを楽しみ、満足感や充実感につながるような活動を取り入れる。また、広くて平らな体育館や人工芝の校庭を活用し、伸び伸びと体を動かすことを楽しめる活動も積極的に取り入れ、その気持よさを十分に味わえるよう工夫



夫する。

【取組①】それぞれの環境の長所・短所を把握し、その活用方法を考察

【取組②】環境の特性に応じた遊具の活用の工夫

四 保護者への啓発と研究内容の発信

保護者の足育への興味を高め、その必要性や重要性、有効性を感じ、各家庭で幼児へ働き掛けたり、取り組んだりしてもらえるように発信する。

【取組①】保護者の足のサイズ測定体験会の実施

【取組②】親子遠足における「からだチャレンジ」の導入

【取組③】「親子で遊ぼうデー」における、親子で想像の世界を楽しむながら様々な体の動きを経験できる運動遊びの導入と、保護者への説明

【取組③】「親子で遊ぼうデー」における、親子で想像の世界を楽しむながら様々な体の動きを経験できる運動遊びの導入と、保護者への説明



五 教職員の共通認識と指導の一貫性

一貫性

四十名の教職員が勤務している園であるため、教職員が足育の基本的な知識や靴の正しい履き方について学ぶことで、丁寧かつ一貫性のある指導につながる必要がある。

【取組】講師として招聘した早稲田大学人間科学学術員 吉村眞由美先生や日本体育大学 福井直美先生にご指導いただいた内容と、これまでの研究内容を踏まえ、四月当初に、教職員を対象とした研修会を実施。



現在の課題

○六月の園内研究会において、講師の福井直美先生から次の点について指導・助言をいただいた。

- ・ 幼児は、靴を正しく履くと気持ちよいくらいということを実感することで、自然と動きたくなる。
- ・ 幼稚園教育要領に立ち返って考えることが大切である。
- ・ 発達に応じた様々な運動遊びを取り入れる必要がある。

・ 幼児期に多様な動きを経験することが重要であることから、「幼児期に身に付けたい三六の基本動作」を意識するとよい。

これらの点を考慮して、幼児のさらなる「やってみよう」を引き出し、楽しく運動遊びに取り組めるよう、あまり日常で経験できていない動きを取り入れる工夫を考え、研究を深め、幼児の変容につなげる。

○幼児の変容について、教師の主観として成果を感じている点が多い。しかし、より客観的に分かりやすい成果が表れることが望ましい。定期的なフットプリントにより、足の形に変化が見られる幼児も数名いるが、顕著とは言えない現状がある。そのため、より多くの幼児の変容につなげるよう、継続して指導の改善を図りながら運動遊びを積極的に取り入れると共に、幼児の足の実態を保護者と共有し、協力を得ながら研究を推進していく必要がある。



一 はじめに

本園は、平成三十年度・令和元年度に、公益財団法人日本学校体育研究連合会より、JASPE 足育推進事業の推進園の指定を受けました。令和二年度からは、それまでの研究の成果を活かして足元からの健康を促すとともに、足育調査研究協力園として、課題の解決に向けた足育研究と日々の実践を継続しています。

二 今年度の取り組み

【研究成果の継続】

○合言葉

幼児が正しく靴を履けるように、二年間の研究の中で「ベリベリ、トントン、ギュー、ピター!」という合言葉を決めました。「マジックテープを外して履き口を広げ、足を入れる」、「かかとで足をトントンとならし、靴に足をフィットさせる」、「両手でマジックテープを持つ」、「左右に引っ張りながら留める」という一連の流れが、幼児に分かりや

すいようにしています。研究が始まった平成三十年度から約四年がたち、この合言葉が幼児に定着してきていることを実感しています。今後も引き続き合言葉を用いて、幼児に正しい靴の履き方を指導していきたくと考えています。



園内に掲示している絵表示

○貸与靴

研究の一環として、JES日本教育シューズ協議会の協力のもと、上履きや外靴の貸与してもらっています。簡易計測器を用いて幼児の正しい足のサイズを計測し、幼児一人一人が自分の足に合った靴を履くことで、

靴が足にフィットする感覚を身に付けられるようにしています。また、新たに貸与が始まる学年には、JES日本教育シューズ協議会の方に来園していただき、幼児の足サイズを測定してもらっています。正確なサイズを測定、把握することで、幼児一人一人に合わせた靴を貸与できるようにしています。



幼児への貸与靴

簡易計測器

貸与後は、全体に正しい靴の履き方を知らせたり、実際に靴を着脱する場面で個別に履き方を確認したりして、正しい靴の履き方の定着を図っています。今後も引き続き、丁寧な指導をしていきたいと思います。

○保護者への発信

足育に関する保護者理解を深

めていくために、令和三年度、園のホームページに「青南足育研究所」と題したページを作成しました。日本学校体育研究連合会のホームページのリンクを貼り資料を見られるようにしたり、足育研究の取り組みについて紹介したりしています。



青南幼稚園のホームページ

また、園だよりでも足育について取り上げ、足育の意味や正しい靴の履き方を改めて知らせることで、保護者の理解をより深めていけるようにしています。

【教師自身が足元からの健康について考える】
これまでの取り組みを通して、幼児自身が正しい靴の履き方を意識したり保護者が足育への理解を深めていったりする姿が見られるようになりました。また、教師自身も実践を通して足育の大切さを再確認しました。

幼児への指導につなげてい

るよう、教師も日頃から幼児への貸与靴と同じ型の靴を履くようにしています。実際に同じ型の靴を履くことで、靴が足にフィットする感覚を教師自身が実感するとともに、生活の中で丁寧な靴の脱ぎ履きを幼児と一緒に意識することにつながっています。

三 おわりに

約四年間の足育研究の中で、合言葉の制定、貸与靴の活用、保護者への発信など、様々な成果を得ることができました。また、教師もそれぞれの足に合った靴を履くことで、足元からの健康について改めて考え、園全体で足育への意識を高めることにつながっています。今後も、研究成果を引き続き活かしていくとともに、より足育への理解を深めていくための方法を模索していききたいと思います。



正しく靴を履いて、心地よく体を動かす

足育絵本の作成

「幼児期の足育の重要性を広げるために」

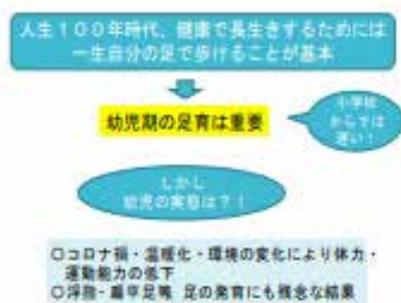
ケンちゃんあしにくものがたり
〜みらいにむかってゴー〜



○今、子どもたちの体が危ない！

高層マンションの増加や安全な遊び場の減少、ICT化に加え、新型コロナウイルス感染症と温暖化等生活様式や環境の変化により、子どもたちは日常的な運動不足に陥っています。そこで体力や運動能力が低下し、さらに足のトラブルが増加しています。このまま育つとどうなるのでしょうか。成長期に形成される足は幼児期から育てておくことが大切です。しかし、幼児期の足育の重要性はなかなか浸透していきません。体育が始

まる小学校からでよいのではないかと思う保育者や保護者の意識を変えていくことが課題に挙げられます。そこで、幼児教育では欠かせない「絵本」を通して、全国の幼児教育関係の方々に「足育」に興味・関心をもつていただくために「足育絵本」の作成に取り組みました。



人生百年時代、健康で長生きするためには一生自分の足で歩くことが基本です。そのスタートが幼児期なのです。

○足育絵本で必要な伝えたいこと

①足育という言葉を知る

- ② 足にあつた靴を履く
- ③ 正しい靴の履き方を知る
- ④ 園内でたくさん体を動かして遊ぶ

以上の四点の重要性がわかるような絵本にしたいと考えました。まずは絵本を読む保育者が関心をもてるようにし、読んでもらった子どもたちにも同時に「足育」の大切さがわかるように園生活を中心にした内容にしました。

○絵本の内容について

主人公のケンちゃんは5歳児で、遊ぶことが大好きな男の子という設定にして、自分のことと重ねて考えられるようにしてあります。靴のベルトを正しく締めていないので脱げてしまうという出来事は日常の「あるある！」体験から話は始まります。その後、幼児の実態である

- ① 靴のサイズが合っていない
- ② ベルトを止めていない
- ③ かかとを踏んでいる

等の幼児の靴の履き方の実態に注目できるようにしました。



○正しい靴の履き方

靴の履き方は知っているようでそうではないことがあります。座って履く、かかとに合わせる、足首をしっかり止める等、基本的なことを押さえていくために、靴の履き方をリズムミカルな言葉で表しました。



- ① くつをひらいて
- ② あしをいれたら
- ③ かかとをトントン
- ④ ギューツペタン!

靴を履くときにこの言葉を言いながら履くことで、正しい靴の履き方が身に付きます。



また次の日に履きやすいように靴のベルトを外しておくポイントも入れました。

○正しく靴を履くことの効果

では、なぜ正しく靴を履くことが大事なのでしょう。幼児期は身体諸機能の調和的発達を促される時期です。その時期にたくさん体を動かすことで機能は発達します。しかし靴によっては足とピツタリしない、動くはずれるなど靴による弊害がたくさんあります。二、三十年前の子どもたちはそれでも、たくさん体を動かしていたので、靴に注目しなくとも発達に問題はあまりありませんでした。現代の子どもたちは、このままでは運動遊びの楽しさを味わえず、結果として運動能力・体力の低下につながります。

は主体的に友達とかかわりながら運動遊びに取り組み、体力も運動能力も上がり、何より体を動かして遊ぶ心地よさが味わえるのです。



○正しく靴を履くための靴選び

では、子どもが脱ぎ履きしやすい靴はどのようなものがあるのでしょうか。この話の中では「魔法の靴」と称して靴の紹介をしています。ダブルクロスマジックベルトで両側に引っ張るだけで簡単に装着できる「JES足守シューズ」がモデルです。簡単に脱ぎ履きできる、そして足とピツタリして動きやすい。それが「魔法の靴」なのです。

○運動遊びの楽しさが味わえる遊びとは

運動遊びに関して各園では指導を工夫して取り組んでいます。その参考になるような遊びを話の中に取り入れ保育の参考になるようにしました。裸足で足を鍛える遊びやゲーム遊び、動物に返信してあしをたくさん動かす遊び、足指ジャンケン等、すぐにできる「足育」への取り組みの入り口です。これらを通して、足育の大切さや、必要性を発信しています。



○未来に向かってGO!

子どもたちはこれから予想の難しい未来に向かって歩んでいきます。仕事のほとんどがAI化され、人間のできることは限られてくることでしょう。地球環境もかなり変化している中で、一人一人が自己を發揮して幸せに生きて欲しいと願っています。二〇四〇年に成人している子どもたちは仕事でたくましく世界を駆け巡っているかもしれません。二一〇〇年には八十

歳を過ぎていますが、「足育」を続けている限り自分の足で歩き元気に自己実現して生きる喜びを味わっていることでしょう。そんな未来を見据えて各幼児教育施設において「足育」に取り組んで欲しいと考えて、絵本を作成しました。

○保育者のための指導書を

この絵本を通して足育を始めたかと思っただけですが、どのように指導したらよいか具体的にかかる指導書を作成していますので、併せてご活用いただければあなたも足育マスターです！

足が変われば子どもが変わる子どもが変われば未来が変わる！心も体も健康でたくましい幼児の育成は、幼児教育に関わるものの願いです。

JASPE 足育研修会（山形大会） 令和四年七月二十九日（金）

於山形ビッグウイング 参加者 八十九名

全国大会を翌年に控えた地域で夏季休業期間中に開催しているJASPE足育研修会が、二年ぶりに対面での実施となりました。今年度、山形県で実施したJASPE足育研修会の様子をお伝えします。



主催者挨拶 日本学校体育研究連合会
会長 友添 秀則

「Withコロナ時代にあつて、本会では肅々と子供たちのためになることを実践しています。足育では、久しぶりに直接先生方とお会いしての研修会となります。本日は充実した研修となることを期待しています。」



開催県挨拶 山形県学校体育研究連合会
副会長 金子 孝宏

「本日は九十名近くの先生に集まって頂きました。体育や健康教育を推進する者であってもなかなか、足に着目して研究する機会はないので、本日の研修を通して学んでいきたい。そして、来年度の全国大会につなげていきたい。」



主催者挨拶 日本教育シユーズ協議会

理事長 早川 家正

「足育研修会の実施にあたり、関係者は感染症対策を十分に講じて参りました。本日はおそらく日本で一番新しい、足や靴の情報が集まっています。一つでも多くのことをお持ち帰りください。」



富岡委員によるJASPE足育の概要説明

○なぜ、今「足育」なのか

JESが行った児童・生徒一万に対する足の調査から、四十三%の児童・生徒が何らかのトラブルがあることが分かった。子どもたちの足を、未来を変えていくために、足育を推進することとした。

○「足育」とは

足育足元からの健康教育「足育」を通して、自分の体に気づき、健康な生き方について学ぶ力を育てる。

○足育の授業モデル

足育の学習の基本的な流れを課題解決的な学習となるよう、「そうか！そうだ！そうしよう！」の三つのステップで考えた。各学年の学習指導案については、学体連・足育のホームページに掲載している。

○指導内容の体験として、

- ① 模擬授業
 - ② 足指体操
- を行った。



武田・千葉・岩田委員による模擬授業の様子

① 一年生「げんきくんの一日」

正しい靴の履き方をしている「げんきくん」と、そうでない「へとへとくん」の様子を通して、姿勢や靴の履き方の大切さに気付かせる学習を展開した。



大型モニターを活用しての足指体操の紹介

② 足指体操

会場の参会者に実際に足指体操を体験してもらった。

○幼稚園絵本紹介



福井委員による、作成中の絵本の紹介

幼児に絵本を通して足育の重要性を発信するため、絵本を作成している。多くの参会者が足の計測を体験した。



休憩中の足計測の様子

講演 「シューエデュケーション®最新情報2022夏
『時代に即した教育のヒント』」

(公財) 日本学校体育研究連合会 JASPE 足育事業 特別顧問
早稲田大学人間科学学術院 招聘研究員博士 (学術)

吉村 眞由美先生



【ドイツの靴教育】

以前、日本とドイツの靴教育
に対して比較研究を行った。

ドイツの靴店では、足のサイ
ズを測り、靴の選定は知識と経
験のある大人が行う。子ども
靴は革製が一般的で無地、機能
性が重視されている。学校では
靴を履くスペースにはベンチが
用意され、小学校入学前に、子
どもが一人で紐靴が履ける教育
文化が根付いている。

一方、日本では、足を測るこ
とはせず、靴のデザイン性重視
で子どもが靴を選ぶ。サイズに
関しては、履いてきつくなけれ
ばよいという程度で選んでいる。
学校の靴箱は靴をしまふ場所

あり、靴を履くためのスペース
もほとんどない。時には、急い
で履くように急かされて、手
使わずに靴を履くことが求めら
れる。また、ランドセル以外にも
両手にもいっぱい荷物を持つ
て登校することもある。こうい
つた現状からも日本では大人の知
見と意識の向上、用具と環境の
整備が必要だと考えられる。

【足育の背景と諸問題】

日本人のファーストシューズ
は七十七年前までは、「じょ
じょ」であった。「じょじょ」
は構造上幅広であったり、つま
先をトントンをして履いたりす
るが、日本人は今もゆつたりと
した靴を好んだり、つま先をト
ントンを履いたりしている。
つまり、「じょじょ」が現在の
日本人の靴文化に影響与えてい
る可能性がある。

しかしながら、日本では靴教
育に今まで誰も目を向けてこな
かった背景がある。今後、子ど
もたちが健やかに成長していく
ためには、足元の環境整備(靴

教育)と体育・運動遊びを推進
していくことが必要だと考えら
れる。

【足育の実際】

生まれたての子どもの足は未
発達未完成である。六歳前後で
化骨にすると言われている。
陸上部中学生で足の疲労骨折
をした生徒の靴を医師が見る
と、靴底が摩耗して、よく観察
していくと履き方の乱れが骨折
の原因であることがわかった。
この生徒は部活動で靴紐を結ぶ
ように指導を受けたことはな
かったそうである。

このような事例は他にもあり、
靴紐を結んだまま脱ぎ履きをす
る、靴紐を結び直さない、足に
サイズが合っていないなどと
いったことが足のトラブルと関
係していると考えられた。

子どもは年間一センチメー
トル足が大きくなると言われてい
るが、保護者はそういった情報
を知らないために、「もつたい
ないサイクル」として、子ども
に大きすぎるサイズの靴を買う
ことが当たり前になっているよ
うに思われる。例えば、足にト
ラブルがあったある子どもは実
際の足のサイズよりも三センチ
メートルも大きいサイズの靴を
履いていた事例があった。三セ
ンチメートルも大きいというこ

とは、三年間も履けるとい
とである。しかし、子どもが三
年間も同じ靴を使用することは
難しい。そのため、ちょうどよ
くなる前に、また同じように大
きいサイズを購入し常にゆい
靴を履かされてしまうのである。
これらのことから、大人は
靴の履き方とともに、子どもの
靴のサイズを適切に把握するこ
とが必要である。スキヤモンの
発達曲線からいっても、乳幼児
期から足感覚を育てることが必
要である。

【靴教育で得られる効果】

- 「運・快・転・緊」
- 運：運動パフォーマンス向上
(靴の機能性を活用)
- 快：快適性の向上(フィットし
た足感覚の育成)
- 転：転倒・障害予防(足元の安
定性の向上)
- 緊：緊急時の安全確保(事故被
害の軽減や予防)

【子どもへの声掛けの重要性】

「これが正しい履き方だよ。」
子どもが正しい履き方をして
いたら、声掛けをしていくこと
で子どもの身体感覚に刷り込ま
れていくと考えられる。

【足育はじめの一步】

上履きを教具と考えて、教師

と子ども全員が同じ上履きを履
くことよって、全員が履き方
を学び合い習慣形成がすすむ。
そのためには、上履きを家計の
中で教育費に組み込んでいく必
要があるであろう。全員が同じ
上履きにするのであれば、成人
靴のひも靴の動作が学べるダブ
ルクロスベルトがおすすめです。

【指導者として今日から始めて
ほしいこと】

- ① 自分自身の正しい足サイズを
知り、正しい靴選びをする。
- ② 自分自身が正しい靴の履き方
をする。
- ③ JASPE 足育を学び、指導
法を身に付ける。
- ④ 子どもの足と履き方を改善す
る。



第三十六回 日本靴医学会学術集会
人と靴との調和への挑戦
令和四年九月二日（金）

於鎌倉芸術館

令和四年九月二日（金）、鎌倉芸術館を会場に、第三十六回日本靴医学会学術集会が、ハイブリッド形式（現地開催＋WEB配信）で開催された。

JASPE足育推進委員会からは、JASPE足育事業 特別顧問 早稲田大学人間科学学術院 招聘研究員 博士（学術）吉村 眞由美 先生がシンポジウムの座長を務め、日本教育シューズ協議会 早川 家正 理事長、JASPE足育推進委員会委員長 練馬区立光が丘春の風小学校 内木 勉 校長が学会長からの要請を受けシンポジストとして登壇した。発表後、会場から拍手が起こるなど、関心の高さを実感した。

シンポジウム2 小児の足と靴 ～科学的エビデンスの普及と教育～
座長・鳥居 俊（早稲田大学スポーツ科学学術院）
吉村 眞由美（JASPE足育事業特別顧問）

【シンポジウム一覽】
◇小児における足と靴に関するレビュー及び最近の知見
国際医療福祉大学医学部整形外科学 竹島憲一郎

◇三次元足型計測による複数幅学校用シューズの開発と課題
JES日本教育シューズ協議会 早川 家正

◇小児靴の開発に関する研究
早稲田大学スポーツ科学学術院 植山 剛裕

◇JASPE足育の現在 教育現場から見る子どもの足と靴
JASPE足育推進委員会 内木 勉

◇子どもの足と靴に関わる諸問題
小野整形外科 小野 直洋

三次元足型計測による複数幅学校用シューズの開発と課題
JES日本教育シューズ協議会
早川 家正

靴に起因する足トラブルの軽減と足の健全な成長には、足長足囲ともに足に適合した靴の開発供給が欠かせない。特に使用時間の長い学校用シューズ（上履き）の改善は急務だと考える。

そこで、計測データを元にMIDDLE、WIDE、NARROWの三種類の幅の学校用シューズを設計し、生産供給を始めた。また、JASPE足育事業に協力し、足育推進園、足育推進校の足計測とフィッティングを行い、令和三年四月より全児童へ

の上履きの貸与を行なって製品の検証を行っている。

今後、靴の設計値とフィッティングの差異、被験者の靴感覚の変化などを明らかにしていきたい。また、複数幅のシューズを作っても、足に合わせたサイズ選択が伴わなければ意味がない。日本には靴文化が乏しく、靴の選び方や履き方の知識・技能を習得している人は少ない。この課題を解決するためには、学校教育に「足育」を導入し、靴の選び方や履き方を子どもたちに習得してもらうことと、本学会に属する専門医から正しい情報を広く発信していただきたいと考える。

JASPE足育の現在 ～教育現場から見る子どもの足と靴～
JASPE足育推進委員会
内木 勉

JASPE足育推進委員会で、「足が変われば子どもが変わる！子どもが変われば未来が変わる！」を合言葉に、足元からの健康教育に取り組んでいます。私たちは、三十名を超え、幼稚園・小学校・中学校の教員を中心としたメンバーが、出前授業や情報発信など教育現場での実践に積極的に取り組んでいます。私たちと「足育」の出会いには二〇一一年（平成二十三年）でした。

私たちは毎日の学校生活の中で、子どもたちの足のトラブルやけがと向き合い、上履きのはき方の指導など、子どもたちの足や靴について同じような悩みをもっていました。そんな時に、小・中・高校生一万人の調査とその結果を知り、私たちの日々の悩みが感覚的なものだけではないことがわかったのです。目の前の子どもたちをより良く変えていくために、足元からの健康教育・足育が必要だと考えたのです。私たちは、足育の取組で学んだことを、実際の生活の中にどう位置付けさせていくかが課題だと考えています。そのためには保護者の意識を変える必要があります。保護者の意識

を変えていくためには、医学的な見地、科学的エビデンスからのアプローチが必要なのです。

私たちが足育の学習の基盤としてしているのは「そうか・そうだ・そうしよう」というキーワードです。そうかと気づき、そうだと実感し、そうしよう実践することが大切です。保護者のそうか・そうだ・そうしようを強く後押しできるのは、医学的な見地であり、科学的エビデンスであり、そこに携わる皆さんの言葉なのです。

是非、靴医学会のさまざまな活動を通して、保護者の背中を押していただきたいのです。ご参会いただいた皆様にも、是非、一緒に足育を進めていただけたらと思っております。はじめの一步を一緒に踏み出していきましょう。



令和3年度 個人賛助会員

個人賛助会員 (10,000円)

北海道	島津 伸宏
青森県	福原 正人
	千葉 誠
岩手県	仁昌寺 真一
	菊池 正樹
	谷藤 節雄
	高橋 聡子
宮城県	廣瀬 清文
秋田県	越中谷 俊悦
	山本 暢三
山形県	貝田 裕昭
福島県	大知里 重政
茨城県	國府田 稔
	佐藤 仁
	大曾根 淳
	吉澤 和彦
栃木県	飯田 道彦
埼玉県	坂田 真澄
	水石 明彦
	鳥塚 源太郎
千葉県	高橋 健志
	上田 泰久

東京都	西澤 武
	浅岡 寿郎
	佐藤 浩
	黒田 佳昌
	山口 孝
	清水 智之
	小関 直樹
神奈川県	荒井 健
新潟県	大淵 英一
	佐藤 元彦
	村井 友明
	渡邊 芳哉
富山県	小杉 峰広
	貫和 ゆか子
長野県	宮下 昭夫
	田澤 稔
岐阜県	今尾 謙二
	中川 浩美
静岡県	笠井 義明
山梨県	小俣 宏記
愛知県	伊藤 千秋
	永屋 雅樹

大阪府	寺田 暁司
兵庫県	越智 吉則
	升川 清則
奈良県	田中 雅和
和歌山県	津村 吉輝
鳥取県	坂田 裕
岡山県	山本 和明
広島県	※大田 恒二
徳島県	中江 英生
愛媛県	笹本 太三郎
佐賀県	大木 貴博
	三上 智一

※ 20,000円

児島株式会社
JES 日本教育シューズ協議会
株式会社学研教育みらい
株式会社大修館書店
フットマーク株式会社
株式会社ギムニク
株式会社ミカサ
株式会社GRIP
教育シューズ振興会
学校体育シューズ研究会（株式会社アスティコ・協和株式会社）
株式会社第一学習社
日進ゴム株式会社
株式会社光文書院
大日本図書株式会社
東京書籍株式会社
セノー株式会社
あかつき教育図書株式会社
株式会社三和製作所
ブランロッシュ株式会社
株式会社こども体育研究所
ミズノ株式会社
株式会社エバニュー
株式会社正進社
株式会社東洋館出版社
プラス株式会社ジョインテックスカンパニー

〈大会協賛企業〉

東武トップツアーズ株式会社

本財団事業は「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」から
助成を受けております



gymnic[®]
THE WAY TO MOVE



PHYSIOTHERAPY

TOYS

FITNESS

WELLFIT



(公財)日本学校体育研究連合会
認定 No.2018001

公益財団法人 日本学校体育研究連合会 優良体育用品

空気を入れないハンドボール



重量約150g

ネーム可

SD10-YBL/YLG/YP ¥2,000 (税込¥2,200)

【スマイルドッジボール1号】

●スポンジ(EVA) ●円周約59cm ●推奨内圧0.10-0.15kgf/cm² ●タイ製



YLG



YP



小学生低学年

HBO

¥2,000 (税込¥2,200)

【ハンドボール0号】

●手縫い、人工皮革、ソフトタイプ ●円周約47cm
●パキスタン製

RKU BASKETBALL LAB 共同開発



重量約430g

ネーム可

SB612-OBL ¥3,000 (税込¥3,300)

【スマイルバスケット6号】

●スポンジ(EVA) ●円周約73cm、推奨内圧0.20~0.25kgf/cm² ●タイ製



セストボール



重量約240g

ネーム可

SC-YPLG ¥2,200 (税込¥2,420)

【セストボール】

小学生 ●スポンジ(EVA)、推奨内圧0.2~0.25kgf/cm²、円周64.5~66.5cm ●タイ製

プレルボール



重量約210g

ネーム可

SP-OYLG ¥2,400 (税込¥2,640)

【プレルボール】

小学生 ●円周約62cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.15-0.20kgf/cm²
●タイ製 / カンボジア製



重量約280g

小学生全学年

SF428-WBK ¥2,500 (税込¥2,750)

【スマイルサッカー4号】

●円周約65cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.15-0.20kgf/cm²
●柔らかさと使用感をバランスさせたスマイルサッカーボール ●タイ製 / カンボジア製



重量約260g

小学生低学年

SF326-WBK ¥2,400 (税込¥2,640)

【スマイルサッカー3号】

●円周約59cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.15-0.20kgf/cm²
●柔らかさと使用感をバランスさせたスマイルサッカーボール ●タイ製 / カンボジア製

空気を入れないフットサル



重量約260g

ネーム可

SFL3-Y/P ¥3,000 (税込¥3,300)

【スマイルフットサル3号】

●円周約59cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.10-0.15kgf/cm² ●3号サイズによる重量約260gのスマイルフットサルボール ●タイ製



P

空気を入れないフットサル



重量約300g

FLL300-WBY ¥2,000 (税込¥2,200)

【ソフトタイプフットサル】

小学生 ●手縫い、人工皮革、ソフトタイプ、重量約300g
●円周約59cm ●タイ製



重量約290g

TRS-Y ¥1,700 (税込¥1,870)

【スマイル タグラグビーボール】

小学生 ●軽い、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.20-0.30kgf/cm² ●円周68.5~70.5×51~53cm
●重量約290g ●グリップ性があり、握りやすい。 ●4号 ●中国製



FFF-Y/BL ¥1,200 (税込¥1,320)

【フラッグフットボール用フラッグ 1セット】

●フラッグ幅32×幅32cm、ベルト長89×幅2.5cm ●フラッグポリウレタン、ベルトポリエステル
●セット内容 フラッグ×2枚、ベルト×1本 ●フックテープで簡単装着 ●中国製

FFF10-Y/BL ¥11,000 (税込¥12,100)

【フラッグフットボール用フラッグ 10セット】

●セット内容 フラッグ×20枚、ベルト×10本



重量約150g

FF-YBL ¥1,500 (税込¥1,650)

【フラッグフットボール】

小学生 ●軽い、スポンジ(TPE)、推奨内圧0.07kgf/cm²
●円周52~54×38~40cm、重量約150g ●中国製



重量約150g

KR-Y ¥1,500 (税込¥1,650)

【スマイル ラグビーボール】

小学生 ●軽い、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.07kgf/cm² ●円周52~54×38~40cm
●重量約150g ●中国製

NONSLIP SERIES



公益財団法人
日本学校体育研究連合会 優良体育用品

ノンワックス・
水分不使用

安全性

学校環境衛生基準・
食品衛生法基準をクリア

下処理なしで塗布可能

簡単

バスケットコート2面
(当社施工)を
1時間以内に塗布可能

ワックス成分不使用の体育館専用メンテナンス剤



メンテナンスクリーナー
¥48,000(税別)

ノンスリップ
¥58,000(税別)

ノンスリップハイパー
¥82,000(税別)

驚異のグリップ力回復

高性能

ウレタン樹脂塗装と同等
滑り抵抗係数
+0.3以上回復 ※

コストは1/10以下

低コスト

ウレタン樹脂塗装に
かかる費用(当社比)

※NONSLIPが該当

ますます拡大中!

サンプルのご希望、ご不明な点などお気軽にお電話ください。

GRIP

株式会社GRIP

本社) 鹿児島市与次郎 1-5-30

TEL.099-297-5455

支店) 東京都港区浜松町2-10-11

TEL.03-6820-0820

日本の室内スポーツの底上げは「床」から。



<導入施設一覧>

ケガ人をゼロにする。そのうえで、子どもに「できる喜び」を体感させる。

写真と動画で丸わかり 跳び箱指導 のすべて



書籍の詳細ページは
コチラ!



東洋館出版社

〒113-0021 東京都文京区本駒込5丁目16番7号
TEL.03-3823-9206

判型: B5 / 160頁 / 税込価格 2,200円

Blanc Roche



フルオーダーメイド ウェア・シューズ

【取引先】

都内を中心に100校以上の幼稚園・小・中・高・大学

《体操着・水着・上履き・通学帽・体育教材・備品・部活用品》
ゴール・ネット・マット・支柱・ハードル・プールフロア・ラインカー
ネーム加工 ユニフォーム・シャツ・ジャージ・バッグ・ボール

【取扱いメーカー】

アシックス・ミズノ・アディダス・ナイキ・プーマ・ノースフェイス・チャンピオン・アスレタ コンバース・デサント・D&M・ゼット・エスエス
ケイ・ウィルソン・ハイゴールド・アンプロ・シュアプレー・ヒュンメル・ルコック・ディアドラ・ペナルティ・モルテン・セイコー・ゴーセン・
ニューバランス・ヨネックス・ナガセケンコー・エパニュー・トーエイライト・ミカサ・鐘屋産業・奏運動器具工業・仲條・成美堂スポーツ出版・
ダイケントップ・ニチバン・KT・ルーセント・ヤサカ・ヤマト卓球・日本卓球・タマス・九桜・早川繊維 他多数

ブランロッシュ株式会社

東京本社 〒176-0006 東京都練馬区栄町32-15 TEL: 03(3994)1055 FAX: 03(3994)1079
埼玉営業所 〒359-0026 埼玉県所沢市牛沼431-4 TEL: 04(2001)6421 FAX: 04(2001)2323

ブランロッシュ公式ホームページ [http://www/blanc-roche.com/](http://www.blanc-roche.com/)
ブランロッシュヤフー店 <http://store.shopping.yahoo.co.jp/blanc-roche/>
お問い合わせ メールアドレス school@blanc-roche.com

祝 第61回 全国学校体育研究大会 滋賀大会

映像データベースは「深い学び」を支えます。

映像データベース



体験
してみよう!

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/ict/taiken/>



たくさん

小・中学校 各10教科
約6,000コンテンツ

小学校、中学校各10教科を
ラインアップしました。教科書
の学習内容に即したショート
クリップを多く収録している
ので、ふだんの授業ですぐに
お使いいただけます。



かんたん

直観的な操作で
てがるに使える

教科書の単元や分野を絞り
込んで目的のコンテンツを
選択するだけ。プレイリスト
の作成や、QRコードの出力
を使ったこだわりの使い方も
できます。



ひろがる

さまざまな学習シーンで
カリキュラムマネジメント

一斉視聴やグループ学習、
個別学習など、活用場面は
さまざま。アウトプットした
URLやQRコードは、いろいろ
な使い方ができます。

小学校

体育

780
コンテンツ

中学校

保健体育

290
コンテンツ

いろいろな角度からとらえた映像が、運動の流れ
や体全身の動きの細かいようすまではっきりと映し
出します。体づくり運動、器械運動、水泳、ゲーム、
ボール運動などを基礎から、丁寧に扱います。

Web配信 (学校内フリーライセンス)
[1年] 各55,000円 (本体50,000円)
[5年] 各220,000円 (本体200,000円)

※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。



教育事業本部 営業部 (東京) 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel:03-5390-7577 Fax:03-5390-7582
(大阪) 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-4-10 Tel:06-6397-1351 Fax:06-6397-1357
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

スクールシューズのプレミアムスタンダード

教育シューズ® PK-X3



極める

グリップ性

耐久性

超軽量

サイズ… 21.0cm~28.0cm 29.0cm 30.0cm 31.0cm アッパー… ポリエステル/人工合皮
ソール… 合成ゴム/合成樹脂

(公財) 日本学校体育研究連合会賛助会員
教育シューズ振興会

TEL(086)243-2218 FAX(086)243-2253

(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467

<http://www.nisshinrubber.co.jp>

e-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp



スポーツと健康の
未来を創る。

夢の舞台に挑む

アスリートたちの躍動を、最大限に引き出すために。

セノーは100年を超える歴史で

培ってきたあらゆる技術と経験を集結。

最高峰の品質を求めた

スポーツ器具でサポートしています。

すべてのアスリートたちと同じように、

セノーもさらなる高みをめざして。

最高のプレーを支える器具にも

ぜひご注目ください。



Volleyball



Gymnastics



Basketball



Rhythmic
Gymnastics



Senoh セノー株式会社 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台250 Tel:047-311-8912 Fax:047-385-9177 <https://www.senoh.jp>



足の成長を一番に考えた「教育シューズ」

教育シューズ®
A イスMV3



安全で快適な
ポイント

- 1 通気性
- 2 安定性
- 3 クッション性
- 4 快適性

教育シューズ®

プレミアム誕生!

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

教育シューズ振興会

TEL(086)243-2218 FAX(086)243-2253

(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467

<http://www.nisshinrubber.co.jp>

E-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp

【新体カテスト集計・分析システム】

(文部科学省発表新体カテスト準拠)

体力づくりをめざして

- 個人票はカット済み
- 部活顧問用資料を充実
- 測定実施の完全バックアップ

集計・分析処理料金(1人分)

240円(税込)

以下の資料をお届けします

- 学校総括表
- 順位一覧表・級門分布表
- 判定別一覧表
- 生徒指導カード(個人カード控え)
- クラス台帳
- 生徒指導台帳
- 部活分析表
- 運動部活別比較表
- 部活台帳
- 学校集計資料・保健部資料
- ★教育委員会提出資料を完備

TEL 082-234-6806 FAX 082-503-3084 〒733-8521 広島市西区横川新町7-14

- 大阪支社 / ☎06-6380-1391
- 新潟営業所 / ☎025-290-6077
- 横浜営業所 / ☎045-953-6191
- 福岡営業所 / ☎092-771-1651

- 札幌営業所 / ☎011-811-1848
- つくば営業所 / ☎029-853-1080
- 名古屋営業所 / ☎052-769-1339
- 金沢出張所 / ☎076-291-5775

- 仙台営業所 / ☎022-271-5313
- 東京営業所 / ☎03-5803-2131
- 神戸営業所 / ☎078-937-0255
- 沖縄出張所 / ☎098-896-0085



みつめたい教育と未来

第一学習社



教材通販
smartschool[®]
for TEACHERS
スマートスクール

smartschool for TEACHERSは
先生が **授業で使う教材** を **手軽に購入** できる

教材通販です。

教材の選定・購入にお役立てください！

掲載商品は
こちら



忙しい先生を、1年を通してサポートします！カタログをご希望の際は担当販売店まで。



▶今すぐスマートスクールWebにアクセス！

<https://www.smartschool.jp> 検索 スマスク



▶スマートスクールお問い合わせセンター

TEL:0120-598-721 9:00~18:00
(日・祝祭日を除く)

生徒にはわかりやすく、先生には扱いやすい準教科書

AR+2次元コードで全500超の技能動画にページから直接アクセス!

実際の動きを見て
学べるよう
ウェブ動画への
リンクを設けました



アクティブ 中学校体育実技

大好評
発売中



「やってみる」→「広げる・深める」
というわかりやすい構成です。
運動例は、写真を中心に数多く掲載し、
AR/QR機能でページから
ウェブ動画へダイレクトに
リンクできます。

B5判/オールカラー/352頁 ■ 教師用指導書付き ■ 定価: 850円(本体773円)

大日本図書

<https://www.dainippon-tosho.co.jp>

本社 東京都文京区大塚3-11-6
支社 東日本 ☎03(5940)8689
関東 ☎03(5940)8690
関西 ☎06(6354)7315

供給課 ☎03(5940)8676
東京 ☎03(5940)8674
中部 ☎052(733)6662
九州 ☎092(688)9595



健康と安全と教育の「もの・こと」を探求する

学校教材を研究するという意味から、「スクール+ラボラトリー」の略語として
名付けられた総合カタログ「スクラボ」。深い学びに繋がる教材を開発、流通し、
全国の教育委員会や小・中学校にお届けしています。

スクラボ
教材総合カタログ



つくろ あんぜん かんたん

手のひらテニスのテニジー

- ラケットを自分で組み立てられる!
- ラケットもボールもやわらかい!
- 手のひら感覚でラリーが続きやすい!

体育授業「テニス」の
ファーストステップに
おすすめ!



イージーテニスラケット
テニジー 6個セット



rotolo (ロトロ) ボールシリーズに 新しい仲間が登場!



rotolo (ロトロ)
ライトサッカーボール



①イエロー rotolo (ロトロ)
ラビィボール



ウサギの
ように
よく跳ねる!

②ブルー



表 rotolo (ロトロ)
ソフトラグビーボール

やわらかく
受けても
痛くなりにくい



裏



sanwa 株式会社 三和製作所

WEB
CATALOG



〒132-0021 東京都江戸川区中央 4-11-8 tel.03-5607-7811(代) fax.03-5607-7812 <https://www.sanwa303.co.jp>

学習指導要領準拠 小学校体育科 準教科書

体育の学習

2020年度4月改訂!

監修 白旗和也
(日本体育大学教授)

児童書 1~6年 全学年
カラー 定価 各学年
510円(税込)

指導書 1~6年 定価 各学年
2,900円(税込)



大判化で、
イラストや写真が
見やすい!

連続写真で
わかりやすく解説!



二次元コードから
動画が見られる!!

『体育の学習』対応 デジタル図書教材

デジ体

デジタル 体育

DVD版

アプリ版

- *DVD版「デジ体」は、児童書+指導書をセットでご探採いただいた場合のみ、指導書冊数分をお送りします。
- *アプリ版は、児童書+指導書のご探採校へ認証コードをご提供します。認証コードで、全コンテンツが利用できます。
- *アプリ版は、アプリストアからインストールしてご利用ください。対応OS:iOS10~12/iPadOS 13, Windows® 8.1/10 (2022年5月現在)



よくある「つまずき」に対応した
解決法を動画で確認!

800本以上!

動画撮影 &
保存機能も!
動きの確認や、
評価に役立つ!



デジ体の
詳細は
こちら→



光文書院

学ぶことが好きになる。

〒102-0076 東京都千代田区五番町14
TEL.03-3262-3271(代表)
FAX.03-3230-4190
<https://www.kobun.co.jp>

ミズノグループの総合力

■スポーツ施設運営・サービスの提供 ■スポーツ施設の設計・施工 ■スポーツ施設用品販売



スポーツ施設設計・施工
運動プログラム・
サービスの開発・提供

MIZUNO WELLNESS LIFE DESIGN



スポーツ施設管理運営
スポーツ教室・
イベント企画運営



体育施設機器・
器具設計、
施工販売

ミズノ 株式会社 スポーツ施設サービス事業部

〒559-8510 大阪市住之江区南港北 1-12-35
TEL: 06-6614-8184 FAX: 06-6614-8343
〒101-8477 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL: 03-3233-7235 FAX: 06-3295-4286

ミズノ 施設 検索

Physical Exercises
Gymnastics
Track&Field
Swimming
Basketball
Handball
Soccer
Volleyball
Soft Tennis
Table Tennis
Badminton
Softball
Judo
Kendo
Sumo
Dance
Skiing
Skating
Outdoor

学校体育教育の新時代をひらく あかつきの副読本&ワーク



図解
中学体育



新保健
体育ワーク



新保健
ワーク

お手もとに，ぜひ。

あかつき教育図書

〒176-0021 東京都練馬区貫井4-1-11
営業部 ☎03-3577-8966
<https://www.aktk.co.jp/>



株式会社
こども体育研究所



理想の教育、体育を研究する。

東京総本部

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-43-16 コア本郷ビル 8F

☎03-3830-0755 (代) ☎03-3830-0756 ホームページ URL <http://www.kenkyusho.co.jp>

東北エリア … 仙台・岩手・青森・山形・福島・新潟

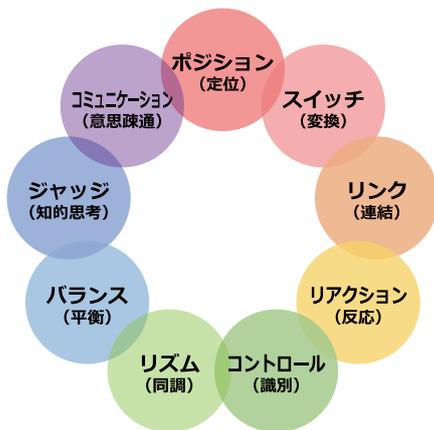
関東エリア … さいたま第一・さいたま第二・茨城・水戸・宇都宮・千葉・神奈川

関西エリア … 東海・浜松・静岡・関西・広島・松山・九州



にこすぼ

にこすぼ®はEVERNEW®製品を最大限に活用するオリジナル体づくり運動プログラムです。
にこすぼ®を通じて"カラダ"と"ココロ"を結びつなぐ9つの運動能力を育みましょう。



詳しくはこちらから

こんな子どもの運動能力を向上させます。



モジモジ



バランス感覚 (不安定)



手がつかない



うまく捕れない



うまく投げれない



まっすぐ走れない

EVERNEW®

「中学 保体資料ノート」

毎年新しいコンテンツが続々と登場!



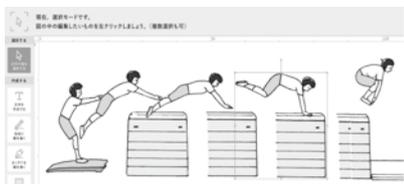
保健体育の先生方
の間で話題に
なっています!

8 正進社
SEISHINSHA

<http://www.seishinsha.co.jp/>

POINT 1

学習カードやテスト作りに便利!
「いじれるイラスト素材」



▶イラストの一部を移動したり、消去したり、角度を変えたり、自由に加工できます。

POINT 2

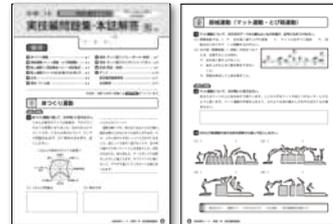
動きをじっくり観察できる!
「お手本動画」



▶横・正面からの映像で動きを確認できます。

POINT 3

テストやプリントにも使える!
別冊「実技編問題集」



▶思考・判断をはかる問題を収録しています。

Gakushin®

SCHOOL SHOES
S-2800



S P E S スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

School Shoes としての耐久性
ただ長持ちさせるのではなく、
運動性能と安全性能も大切です。

協和株式会社 神戸市長田区西尻池町1丁目3番8号
TEL : 078-611-4376(代)

GOLDSTAR
SPORTS SCHOOL SHOES

GX



体育館
シューズ

S P E S スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

高機能・ジャストフィットを実現
超軽量モデル 片足 (24.5cm) **290g**

ASTICO 岡山県岡山市中区江並417-1
株式会社 **アスティコ** TEL : 086-276-2010(代)

明るく 楽しい スクールライフ!

水泳・学校用品を発売し今年で53年。
世の中は大きく変わり、学校の教育現場も目まぐるしく変化している今、制服も自由に選べる時代になりました。
そこで男女で共用でき、誰もが快適に着用できる新しい水着をつくりました。
一人一人の生徒が自分らしく授業に参加できる、そんな新しいスクール水着です。

NEW ジェンダーレス対応スクール水着

男女共用セパレート水着

詳しくは中面をご覧ください ▶



The beginning of
a new era!



大修館書店

■お求めは書店または小社HPへ… <https://www.taishukan.co.jp>

学習指導要領準拠

ステップアップ 中学体育



●B5判・352頁 オールカラー
定価825円(税込)

withコロナ時代の
体育にも対応!



改訂版!

楽しく学んで、
運動やスポーツの
知識と技能を
身につけよう!

- ① デザイン一新!
学習に役立つ写真・イラスト・解説を効果的に配置。
- ② 安全面を重視!
スポーツを安全におこなうための方法が充実。
- ③ 意欲を高める
内容構成!
基礎・基本を重視しつつ
内容を精選。
- ④ みてわかる動きの
ポイント!
二次元コードから動画に
アクセス可能。

評価規準づくり

小学校体育の

確かな学習状況を見取る

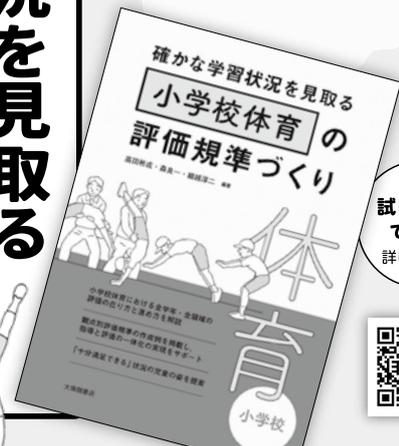
小学校の先生がより良質な授業を実現させ、あわせてより良質な評価活動を進められるようになること(指導と評価の一体化の実現)をめざして、体育における全学年・全領域の評価の在り方と進め方について、「十分満足できる」状況の児童の姿の提案や観点別評価規準の作成例といった実践的な情報を提供する。

●B5判・200頁 定価1,980円(税込)

主要目次

第1章 新しい学習評価の考え方・手続き
第2章 各領域における授業づくりと評価事例
第3章 総括のしかた

全学年・全領域の
評価の在り方と
進め方を解説!



試し読みが
できる!
詳しくはこちら



令和5年度版
小学校体育副読本
学習指導要領準拠

Gakken

新版

みんなの 体育

ワイドで 見やすい
A4判

育成すべき資質・能力に
対応した指導内容の確
実な習得を支えます！



児童書（1～6年学年別 計6冊，A4判）

- 1年 本文 各52ページ
- 2年 本文 各52ページ
- 3年 本文 各68ページ
- 4年 本文 各68ページ
- 5年 本文 各96ページ
- 6年 本文 各96ページ

●詳しい内容は、下記へお問い合わせください。

株式会社Gakken

〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL 03-6431-1151

児童書のほか、
教師用指導書もあります。

指導・支援のポイント、
評価規準例など、授業
に役立つ内容が満載！

学研 学校教育ネット
<https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>



目指しているのは、

人づくり



わたしたちは、

たくさん思い出づくりの

お手伝いをしています。

でも、いちばん目指しているのは

「人づくり」。

わたしたちは、

たくましく生きる力を育成し、

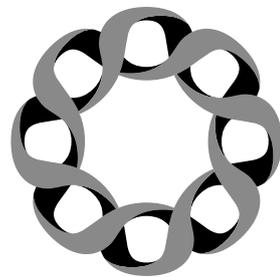
新しい時代に活躍する

「人づくり」に

貢献します。

 東武トップツアーズ

<https://www.tobutoptours.co.jp/>



Columbine

The Guardian of School Life



願いをカタチに

私たちは常に、
子供たちにとって
<安全>で<安心>して
学校生活を過ごせる
「良品提供」をお届けします。

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

(公財)日本学校体育研究連合会推薦品

 児島株式会社

本社 / 〒711-0911 岡山県倉敷市児島小川 2-4-60

TEL 086-473-4634 FAX086-472-0866

関東営業所 / 〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町 1085

TEL 048-642-5883 FAX048-642-4766

盛岡営業所 / 〒020-0846 岩手県盛岡市流通センター北 1-4-18

TEL 019-638-7501 FAX019-637-0144

URL:<http://www.kojima-gp.co.jp> E-mail:gyomu4@kojima-gp.co.jp